西南学院大学　国際文化論集　第三十七巻　第一号　一七七－三三四頁　二〇二二年九月

天保九（一八三八）年　幕府巡見使への対馬藩対応（三）

―宗家文書『御巡検使記録　御勘定奉行所』―

森　弘子
宮崎　克則

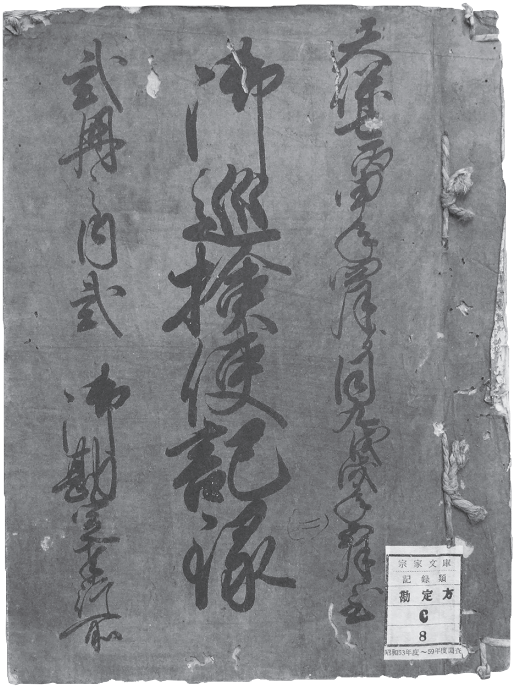
前号『国際文化論集』第三十六巻第一号の続き。

凡例

- 旧字は常用漢字にした。但し、固有名詞は残した。
- 「ゟ」は「ヨリ」、「ホ」は「等」、「而」は「て」、「江」は「え」とした。
- 変体仮名は平仮名に改めた。
- 欠字・平出は省略した。
- 伺いに対する返答として「付紙」があり、「付紙」が頭注に記されてる場合は＜頭注＞と記した。また、朱書きの場合は＜朱書き＞と記し、その範囲を「　」で示した。

- 判読できなかった文字は□とした。
- 読点「、」、並列点「・」は筆者による。
- 傍注の（　）は筆者による注。

「宗家文書」



表紙

天保七丙申年四月ヨリ同九戊戌年五月至

御巡検使記録

弐冊之内弐　　御勘定奉行所

本文

四月朔　江戸表御発駕
閏四月九日　勝本御着
同月廿一日　御国御着
同　廿三日　田舎御発駕
五月二日　御上府
同　五日　御乗船
同　六日　卯之刻御出船

御用掛

御用掛

吉村儀右衛門
藤正左衛門
嶋井儀左衛門
内山繁左衛門
古屋新八郎

〃府内御止宿御普請并諸手当之事
〃同御下宿并御船付宿　右同断
〃売物方之事　一軒
〃旅籠屋之事　三軒
〃遠見番所之事
〃火消番所之事　此節三根草使座御借上ニて相済
〃諸番所之事　但、仮番所ともに
〃御船奉行所之事
〃御郡奉行所之事
〃御馬方之事
〃人馬方之事

府内御本陣

杉村右馬助

〃久田村諸手当之事
〃田舎御宿之事
〃御賄掛持下品々之事
〃田舎売物方之事
〃茶屋々々手当之事
〃御関所之事
〃府内田舎道作之事

府内御本陣御普請并諸御手当

一、府内御宿三軒為御見分御使者屋并南岳院・平田主計宅え杉村右馬助殿被成御出候付、役々左之通罷越

杉村右馬助殿
与頭
樋口亘理
町奉行
仁位格兵衛

御勘定奉行
吉村儀右衛門
添勘定
藤正左衛門
案書役
佐藤恒右衛門
与頭手代
古川俊四郎
同帳付
上原隆右衛門
与頭書手
三浦安右衛門
御勘定手代
古屋新八郎
御作事掛
古川武左衛門
同手代
扇廣作

大工頭
青柳善作
大工小頭
番手小頭
麩細工
山本勘治
小嶋吉次郎

右之通罷越御見分相済、弥右三軒御宿御治定ニ相成候事

府内御宿木賃賄

一、府内於御宿、上使を初御一行、此度も木賃賄ニ相成候ニ付、兼て旅籠屋三軒、大町住居梶山喜兵衛・藤井源治、奥里住居足軽文吉伯父改文兵衛宅御借上被仰付、右三軒ニて御料理一式出来、御本陣・御下宿共ニ釣台ニて煮焚之侭鍋切溜等ニて持運、先々ニて盛・配膳取計御宿亭主

南岳院

一、南岳院之儀、庭之石垣開く座より町を見下候付、東手ハ板四枚通、板塀出来、北手稲荷堂堺ハ丸小竹ニて垣出来、屋根も竹を以不見苦様織付ケ置事

平田主計

一、同所畳借上ニして、上より表替取計御用相済候跡ハ、其侭御渡被下候事

一、平田主計方畳も御借上ニ相成申分、右同断也、扨又屋敷南手ニ広く在之候得共、御旅宿ニ相成候時、掃除難相届候付、下モ手御不用之分竹垣ニて仕切置候事

宿札

一、御宿々用薪之儀、五拾疋、真下御立山ヨリ伐出御免、右伐出し方ハ御郡え申遣し、佐須郷夫より賃金入札ニして被成下、壱疋ニ付

一、御宿々御下宿共ニ御宿札打候事、尤御門右之柱ニ打之、但、御姓名書ハ於御書札方書載いたし候事

御本陣宿札

御本陣宿札寸法

一、椴松ニして長サ弐尺壱寸、横五寸五歩、厚サ五歩

御下宿札寸法

一、松板ニして長サ壱尺八寸、横五寸五歩、厚四歩半

右之通用意いたし御入船前掛置候事

蚊帳

一、蚊帳御三人様分参張、八畳釣ニして紅縁ニして、御用人用手当ハ五六紅布縁、其以下侍衆分ニ当拾参張、木綿更紗縁ニして、大坂注文取計用意相済、其以下軽輩用ハ町より買上ニ相成候事

〈頭注　朱書き〉「此蚊帳之用意方、御上使用ハ以来とも弐畳釣ニて宜く、其以下ハ以来御旅宿毎、間数ニ合用意不致候てハ不相用之事」

御椀盤

一、御三方様御椀盤、府内御旅宿用撫子之模様、御椀はつれ雪模様御椀一番様・三番様用相備、弐番様ハ御自分御持越之御椀器ニて相済、田舎えハうるみ色椀ニして、いつれも御椀箪笥入

御夜具

水風呂

御宿番人

小枕

大坂注文

合ニして、御賄方より持越ニして御用意相済事、尤此節ハ右之御用意ニて相済候得共、重て御用意方侍衆以下之分ハ、御旅宿々間数・畳数ニ応、御用意不相成候てハ不宜段、御宿亭主ヨリ申聞候事

一、上御三方様御夜具ハ、夜着ハ表緞子裏紫秩父ふとん、紫秩父ニして参通り御出来ニ相成候得共、御持越御夜具御用被成候事、御家中用は絹夜具参拾六通、下部用木綿夜具七拾六通、何れも町より御借上ニて相済、田舎用侍衆之分絹夜具不残持越ニして、木綿夜具ハ田舎ニて借上方兼て御用意之為、御郡手代壱人・御賄掛壱人被差下、器物・夜具共見分致、御用意相成候事、且又田舎用水風呂、大中小手洗手桶、小桶ともに一式、木品ハ御立山ヨリ伐渡、御宿亭主より出来、手間代として御用済之上右品々御宿亭主中え被成下候事、此節ハ桶屋不手廻りニも有之、御便用ニ付右之取計ニ相成候事

一、御宿番人之儀、田舎御留守中相詰候様被仰付置候得共、此節ハ御着前ヨリ相詰候様被仰付、御着船迄相詰、府内御逗留之間ハ相詰不申、田舎御留守之間又々相詰候事

但、右番人ニ付、御宿一軒夫之者壱人充相渡

一、上使・侍衆用小枕ニ付枕六拾う、大坂注文ニして取下シ、軽輩之分ハ御賄方在合さし枕ニて府内・田舎共ニ相済

御本陣壱番

御宿亭主　桜井一右衛門

御調物御用承　荒木藤右衛門　高嶋六兵衛

同二番

御宿亭主　高嶋庄右衛門

御調物御用承　春田與兵衛　江口佐兵衛

同三番

御宿亭主　三木重左衛門

御調物御用承　桜井判右衛門　梅野武七

飾手桶

〃御旅宿用薪、五拾疋ニ付込候、駄賃銀渡方御郡奉行所ヨリ御役談申来候、品ニ依以酊庵より付込候例を以、壱疋ニ付銀壱匁弐分充、駄賃銀御極払ニして相渡候事

〃御門両脇え飾手桶、御作事方ヨリ飾之事

〃上使御着際ニ至り、御茶道方且御弓之者より掃除いたし候事

〃御上宿参軒、御座廻り障子ハ溝口張り、其余ハ半紙張ニ被仰付

〃畳も御座廻り納戸之分ハ六匁、其余四匁、勝手廻りハ七嶋ニて相済候事

但、御上宿・下宿共ニ畳床ハ御借上ニして、上より取替被成被下、其侭被成下、尤不足之

朱印台

御使者屋

曽我又左衛門

御用人

給人

分床共上ヨリ御敷入之分ハ相済候上、上え御引取相成候事

〃御本陣御床、御朱印台而已据置、懸物其外置物・花生とも飾付不申事

〃料紙箱、巻物其外台子とも御宿亭主え相渡置、飾付ニ相成候事

〃御宿札御本陣・下宿共、御着船前広、御作事方より掛置

府内御上宿三軒

一、壱番御宿

御使者屋

〃曽我又左衛門様

総御人数参拾九人

内弐人　御用人　池田乙左衛門

関真平

<頭注　朱書き>「御着船ニ至、御槍掛出来無之、急ニ御三方様分共出来ニ相成事」

同参人　給人　藤崎喜内

佐藤善兵衛

高橋弥兵衛

同壱人　祐筆

同六人　御近習
同五人　中小姓
同七人　御徒士
同拾六人　足軽
　　中間

御宿亭主　町六拾人　壱人
御用承　同　弐人
料理人　平町人　弐人
配膳之者　同　六人
下代　同　弐人
定夫　壱人
郡人足　五人

通ヒ子共

一、通ヒ子共拾七人　但、町よりさし出ス、御本陣并御下宿共相勤ル、年行司差配、賃金等無之

一、出火等之節、御立除場、三浦沢之助宅

一、腰掛一ヶ所
　但、二間半ニ壱間切組、三方板壁扮葺ニして

南岳院
大久保勘三郎
御用人
給人

〃御駕籠を釣候事
一、御宿々御門前ニ盛土致し候事
一、御入船之間、御門左右ニ飾手桶三ツ組ニして、壱ヶ所、都合六ツ充三軒ニて拾八用意之事、
尤御下宿ハ全く飾付ニ不及事
一、二番御宿
南岳院
〃大久保勘三郎様
総御人数参拾参人
内弐人　御用人　下沢喜多録
同弐人　給人　安藤善右衛門
同六人　御近習
中小姓
同壱人　勝手方
同四人　御徒士
同六人　足軽
同拾参人　手廻り又者

御宿亭主　町六拾人　壱人
御用承　同　弐人
料理人　平町人　弐人
配膳之者　同　六人
下代　同　弐人
定夫　五人
郡人足　五人

通ヒ子共

一、通ヒ子共拾七人、但し前ニ同断
一、出火之節御立除場、杉村入佐之助宅
一、仮繋壱疋立ニして、南岳院門内東手ニ建之、三疋立ニては門内手狭ニ有之候付如斯
一、腰掛壱ヶ所、弐軒ニ壱間ニして、前ニ同断
一、同所勝手手狭在之候付、六畳切組、御用達控所ニ用意ニ相成候処、御用達控所ハ入用無之候付、平田方え出来ニ相成候分とも六畳切組弐ヶ所を南岳院勝手建、配膳所ニ相成候事
一、同所御普請は作事方ヨリ出来候得共、家曲ミ有之候付、曲ミ直しハ自分ヨリ取計、襖・障子一式自分ニて張立御用立候事

三番御宿
平田主計

一、三番御宿
平田主計宅

近藤勘七郎
御用人
給人

〃近藤勘七郎様
総御人数参拾弐人
内弐人　御用人
同弐人　給人
同弐人　御用掛置候家来　桑名栄蔵
小柳東馬
同七人　近習
中小姓
同参人　徒士
同弐拾人　足軽
中間
御宿亭主　町六拾人　壱人
御用承　同　弐人
料理人　平町人　弐人
配膳之者　同　六人
下代　同　弐人
定夫　壱人
郡人足　五人

通ヒ子共

一、通ヒ子共拾七人、但し前ニ同断
一、出火等之節、御立除場所番柳左衛門宅
一、仮番所壱ヶ所、平田主計門前北手ニ建之、切組三畳敷、畳敷也
〈頭注　朱書き〉「伺ニ依相止」
一、仮繋壱疋立、門内南手ニ建之
　但、前ニ同断
一、腰掛壱ヶ所、弐間半ニ壱間ニして、前ニ同断
一、南岳院庭之石垣開く庭ヨリ町を見下し候付、東板塀、北手竹塀ニして出来
一、右同所宿亭主詰所六畳敷ニして、一ヶ所出来
一、襖・障子、麩細工方ヨリ張之
　但、南岳院ハ願ニ依、自分障子・襖共張かへ候事
一、畳、上ヨリ御敷入ニ相成候事
一、平田主計宅庭ヨリ山手之方迄、志田平兵衛境石垣之上、横板参四枚通板境出来候事

用意物

御宿三軒分用意物
一、料紙箱参ツ　・奉書三帖
　・同半切三巻
　・美濃紙三帖

硯箱

△一、硯箱参ツ　料紙箱ニ添
〃墨宝参丁
〃金銘筆六本
一、光悦硯箱六つ
〃杉原紙六帖
〃百田紙六帖
〃杉原半切六巻
〃銀銘筆拾弐本
〃墨宝六丁

多葉粉

一、多葉粉盆五拾壱
同九ツ　先格ニハ青貝多葉粉盆ニ候処、此節黒塗ニ被仰付候
同拾弐　次之分
同参拾　白木

煙器

一、煙器百拾四本
△内拾八本　上之分
△一、燈台拾八本　ほんほり共
但し次之九本は、ほんほり無之候ても不苦候事

一、手燭六本
○一、台子参通
○一、茶勺参本
○一、鳥羽参本
一、屏風拾双半　但、寛政年ハ成丈重屏風不相用、紋紙屏風差出候様被仰付
〈頭注　朱書き〉「朱丸之分、御茶道方之飾付方夫々いたし候事」
内四双半　二枚折
同六双　六枚折
一、台子先屏風壱双半　〈朱書き〉「此節伺ニ依用意ニ不及」
一、批杓（ママ）参拾六本
内六本　大
○一、朝鮮茶碗九ツ
○一、茶台九ツ
○一、御火入炭弐拾四切レ
一、参拾匁掛蝋燭
一、日町簾六張
内参張　偏子
同参張　紗綾
〈朱書き〉「此節町簾ハ府内・田舎ともニ被差止候事」

屏風

炭取

一、炭取九ツ
内六ツ　塗
同三ツ　白木

丸行灯

△一、丸行灯九軒

湯戸
引盆
火鉢

但、寛政年ハ灯台被相止候付、夫丈行灯不足ニ在之、急ニ下宿亭主申談借調候事、尤一ヶ所ニ六軒充本文之外ニ相増

一、木行灯拾五軒　　一、庭草り参拾六足

一、金鋳掛椀拾人前

坪平二之椀　吸物椀ともに

但、此拾人前之御備ニて御三方共相済候ニして、寛政年ハ御持越之御椀ニて被相済候事

一、同湯戸参つ　一ヶ所壱ツ充ニして

一、同飯次参つ　同断

△一、腰高六束　　△一、木具膳拾人前

△一、塗重箱参組　　△一、真鍋拾弐

△一、引盆九拾　　一、衣桁参脚

△一、酒越参つ　　一、入子鉢六組

内参組切酒ニても

一、唐金火鉢参つ

一、焼物平火鉢拾八　火はしともに

△頭注　朱書き▽「此節夏向ニ付、用意ハ致居候へ共、火鉢ハ不被差出候事」

一、棕櫚箒九本　　一、貝木拾八本
一、御椀掛参つ　布浅黄染ニして無地
△一、鱠皿七束　　△一、黒塗縁高参拾う
内壱束上之分
但此分ニて御三方共相済ム
△一、晒布手拭六ツ　　一、白布手拭六ツ
一、白木綿手拭拾八
△一、小皿七束　上之分壱束ニて御三方ニて相済
内壱束上
一、四拾匁掛蝋燭　九拾丁
一、銅手洗六つ
一、湯桶六つ
△一、肴鉢九枚
一、小杉紙参帖　雑紙用
一、白木片木参枚　雑紙載セ用
一、猪口七束　内壱束上之分
一、茶碗九拾う　内拾五　小服

小皿

銅手洗

猪口

茶筅

蚊帳

絹夜着

内七拾五　薄茶

一、御飯鍋参つ

一、黒塗束束ニ参つ

一、茶筅参本

一、紫ふくさ九つ

一、釜敷参つ

一、茶批杓（ママ）参本

一、茶巾参つ　晒布ニして

一、鑞中次参つ　茶道方より引茶入之

一、布巾六つ　内参ツ布
同参ツ木綿

一、絹御夜具参通

一、御蚊帳参張

一、同七張

一、絹夜着・ふとん

先格侍分絹夜着・ふとんと相見候処、寛政年は御着之上、木綿ニ仕替候様御達之有候得共、急成事ニ付、絹・木綿打交相済事と相見、此節ハ絹夜具御用意之侭相済候事

一、寝莫座参枚
一、毛氈六枚
一、木綿袋九つ　米入用
一、手拭掛拾八
一、刀掛拾八
　内参ツ　壱柄掛　同参ツ　弐柄掛
　同六ツ　拾柄掛　同参ツ　拾五柄掛
　同参ツ　五柄掛

刀掛

一、御朱印台参ツ　寸法、絵図集之細

御朱印台

一、下駄参拾六足　内六足、庭下駄
一、湯板参枚
一、椀台参ツ
一、御膳題参ツ
一、折釘参拾本程
一、大手洗拾弐　内参ツ上之分
一、手水手洗拾弐　内参ツ上之分
一、桶風呂拾弐　内参ツ上之分

桶風呂

水桶

一、御茶水桶九荷　割菱錠落しニして
一、水桶参つ
一、御手水桶参つ
一、小桶六つ
△一、鉢台参つ
△一、蝋鉢三つ
一、水流し参つ
一、ちり取参つ
一、そくい板六枚
一、机参脚

塗飯次

一、塗飯次参拾う
一、水こし六つ
一、塗片木六束拾五枚
一、錫六つ
一、蓋天目六拾う

庖丁

一、料理庖丁参通　町料理人ヨリ持出候事

まな板

一、まな板拾弐面　大小にして

火箸

箱枕

七りん

一、火箸六膳
一、五徳拾八
一、薄縁九拾枚
一、丸挑灯六張　引両斗
一、箱枕六拾う
一、黒椀　侍衆人数丈
一、湯戸弐拾七湯桶
一、宗和膳　侍衆人数丈
一、刻多葉粉参斤　此節売物方へ相備置候事
一、吸物椀参拾人前
一、縁莫蓙　御着之恰好ニヨリ用意之事
一、結飯次拾弐
一、七りん六つ
一、御薬箪笥参つ　此節ハ御三方様ニ壱ツ田舎持下りニ相成
一、薬鑵（ママ）拾八　大中
一、磻水さし三ツ
一、銅油次参つ

かま鉾板

そふけ

炭

一、湯形九ツ　御用人衆以下之用、寛政年ハ白木綿ニて相済候事
一、茶袋六ツ
一、白箸九袋
一、金杓拾五本
一、かま鉾板参拾枚
一、煎茶参斤
一、付木・燈心（芯）
一、木杓子拾五本
一、貝杓拾五本
一、味噌越九ツ
一、中そふけ九ツ
一、大そうけ三ツ
一、薪五拾疋　御郡ニて相備置
一、明し松六百斤
一、炭
一、切藁　〈朱書き〉「此節不及用意」
一、米櫃六ツ

田楽串

一、セつかひ拾五本
一、火吹竹六本
一、組棚参軒
一、竹箒六本
一、藁箒三本
一、手持子六つ
一、塩入三つ
一、衣掛竿弐拾四本
一、木枕六拾う
一、脚立参つ
一、味噌入参つ
一、豆腐通箱参つ
一、股木弐拾四本
一、田楽火鉢参つ
一、田楽串百本
一、鉄灸参丁
一、定木参本

むしろ

肴鉢

一、載板参枚
一、摺鉢台九つ
一、日光椀　侍衆以下人数次第
一、同膳　右同断
一、研石六つ
一、鍋取六つ
一、むしろ六拾枚
一、薄刃六枚
一、鱠皿　侍衆以下人数次第
一、酢・醤油くり六つ
一、肴鉢九枚　台所用
一、青白玉よま
一、出刃庖丁六枚
一、かゝり参挺
一、升参組
一、斧参挺
一、木綿六尺　雑巾用

わさひおろし

魚鉢

一、だし袋参ツ
一、すめ袋参ツ
一、銅あふりこ参枚
一、わさひおろし参ツ
一、水納六ツ
一、手付樽六ツ　醤油酢入
一、半切桶参ツ
一、三ツ入子桶六組
一、味噌桶六ツ　大小
一、水田子六荷　棒共
一、すめ桶三ツ
一、たし桶参ツ
一、居桶六ツ
　内参ツ　用水用、御作事方御有合、大木賀ニて相済
一、酒手樽六ツ　大小
一、魚鉢六ツ
一、手桶参拾う

一、飾手桶参拾う
　　但、用水桶之上ニも積置候事

宿札

作一、御宿札参枚　椴板ニして　長弐尺壱寸
　　横五寸五歩
　　厚サ五歩
　　右御宿札掛請持人馬方差配

御精進日

〃公儀御精進日ハ、御宿亭主ヨリ相伺候先格ニ候事

賄〃御門之左右ニ丸挑灯弐張ツヽ燈之候事
　　寛政年ハ武田様御宿ハ御自分之丸挑灯壱張、此方之丸挑灯壱張燈之候事

作〃御三所様共御式台ニ御自分之幕を被張候ニ付、前広ニ折釘を打候事
　　此節ハ表門ニ御張被成、御玄関ハ幕無しニて相済候事

木賃請取書

一、木賃請取書、彼方之帳面ニ左之通書載、差出候事
　　請取申候木賃米代・茶代之分
一、銭拾弐銭　　御上御壱人様
　　内六文　　木賃
　　六文　　茶代

〈頭注〉「此木賃売物方御算用ニて可相極事」

一、同参百九拾六文　御人数参拾九人、但御壱人ニ九文当
内弐百参拾四文　木賃御壱人六文当
同百拾七文　茶代同断参文当
一、同六百八拾文　白米壱斗代御上下四拾人分
但し、御壱人ニて弐合五勺、壱升ニ付六拾八文充
〆丁銭壱貫四拾参文
右之通今昼御弁当被仰付、銭木賃代共慥ニ相請取申候、御家中末々迄も非分之儀無御座候、若相場ヨリ下直ニ売上申、以後御聞被成候ハヽ、如何様ニも御吟味被成下候、為後日如件

寛政元酉四月　対州下縣郡府中
御宿亭主　何之何かし　判
御用承　何之何かし　判
御用人衆宛殿付

木賃代

出火

〃町より別段御巡検使中夜廻弐拾人被相備、万一出火等之節は町肝煎召連、人馬方え駆付候先格之段申来
〃右同断之節、駆付人夫町ヨリ之出夫外、御郡奉行所・御米蔵示談之上、夫々申付候事

浜馬方ヨリ五人
御郡　同弐人
御米蔵　同九人
右非常御備夫之儀、御一方ニ付弐拾人充、〆六拾人之内、参拾人は駕籠舁夫、同参拾人ハ右三十六人之内ヨリ召仕、六人ニ余人ニして

銀五百弐拾五匁　参番御宿　平田主計
同四百五拾匁　弐番御宿　南岳院
但、稲荷上下迂宮料共右ニて相済候事
右ハ御止宿御借上ニ相成ニ付、往来家移料右之通御渡被下、委細伺之細ニ記
右之通御渡被下候事故、移り先ハ自分ニて用意、主計ニハ御普請取掛前用意場所へ引移り、南岳院ハ御普請成就御見分前変宅いたし候事
御巡検使御宿御普請御成就ニ至候付、旧臘成就之段御届申上置候処、戌正月廿二日左之通御使者家・南岳院・平田主計宅御見分在之

御家老
田嶋左近右衛門殿
幾度八郎左衛門殿

南岳院
御借上
御家老

町奉行

勘定奉行

与頭

田嶋所左衛門

町奉行

仁位格兵衛

御勘定奉行

吉村儀右衛門

案書役

平山新蔵

佐藤恒右衛門

与頭手代

古川俊四郎

同書手

三浦安右衛門

御勘定手代

古屋新八郎

内山繁左衛門

嶋井儀左衛門

御作事掛
古川武左衛門
同手代
圓嶋貞治
御賄掛
大宮吉左衛門
大工頭
青柳善作
番手小頭　久米蔵
大工小頭　惣八

大工頭

御本陣

御本陣三軒え旅籠屋より御料理差廻し候節之為、釣台壱ツ充都合参ツ用意、覆共相渡候事
上使御膳上用台三ツ出来候事
〃御宿々御普請向皆成就ニ至り、御用掛り之御年寄中を初、以下御用掛之御役々又々見分被仰付候付、御三軒ニ罷出候事
〃御宿々え掛ケ候のれん之儀、此節御伺申上候、品ニより被相止候事
〈朱書き〉「右於南岳院、吉村儀右衛門ヨリ上左近右衛門殿御聞届候事」

のれん

御茶道

〃寛政年上使之節ハ、府内・田舎共ニ御茶道不被相付候処、此節ハ府内・田舎共ニ御茶道壱人被相付、朱丸之品々、御茶道方より飾付置候処、御着之上、御茶道ハ御引セ被成、飾付之品々ハ御向うえ御借り被成御用ヒニ相成候事

丸挑灯

一、御門左右胴引両丸挑灯弐張ツヽ、御式台へ、同壱張灯シ候先規ニ付、及手当置候処、此節ハ御門両脇え胴引両台挑灯弐張燈之、御式台は御持越之御自分様御紋挑灯御燈被成、幕之義、是又御持越御自分幕表御門御張被成候事

府内御下宿御船付宿共

壱番　松井文作
弐番　佐護草使
参番　豆酘草使

〈頭注　朱書き〉「松井方外構門無之候てハ御宜間敷、評議ニ至、御着船際ニ相成、急ニ板壁ニて外構貫木門出来ニ相成候事、大町通ヨリ座を見込候間板塀出来候事」

右之通御下宿参軒御借上ニ相成

平山源吉
亀屋半蔵
崎野佐平衛

御船付宿

右御船付宿三軒御借上

作　御下宿御船付宿壱軒ニ夫之者壱人充相渡候事

御宿亭主ニ相渡候先例也

御下宿亭主

柴田武吉
東田卯右衛門
藤崎長左衛門

御船付宿亭主

土田卯兵衛
豊田善九郎
前川護兵衛

〃御乗船付衆馳走人、御馬廻ヨリ三人被仰付候先格ニ候処、此節寛政年之形を以船改頭ヨリ相兼候用被仰付、尤御乗船之衆揚陸等在之候節も御宿亭主はかり致挨拶、船改頭ハ一と通之儀は不致対談、文通ニて相済候様被仰付、御乗船ニ付候掛合事ハ御船頭承之候と寛政年記録ニ在之、此節も御船頭応対ニて相済、御下宿并御船付宿へ手当被置候、品々左之通、但此節左之通御備之内、宿亭主持合之品ハさし出シ、御入用之節可相償、不持合品之み相渡候様申出候段寛政年記録ニ在之

〈頭注　朱書き〉「一番様御乗船、小笠原佐渡守様ヨリ出ル、二番・三番様御乗船ハ、松平肥前守様ヨリ出ル」

御宿々之分

御宿々之分

一、刀掛六ツ
一、塗行灯参ツ
一、硯箱参通
一、飯釜六ツ
一、料理鍋六ツ
一、薬鑵参ツ
一、批杓（ママ）六本　大小
一、水納参ツ
一、火箸参膳
一、貝杓子参本
一、羽釜参ツ
一、多葉粉盆拾弐通
一、茶碗六拾う
一、水風呂六ツ
一、陰玄薬鑵参ツ
一、七りん参ツ

一、茶ぼん参ツ
一、真板参面
一、料理庖丁参通
一、椀六拾人前
一、飯次拾弐
一、湯戸拾弐
一、飯櫃参ツ
一、入子鉢参組
一、金色六ツ
一、片木拾五枚
一、丸盆三束
一、金杓六本
一、間鍋六ツ
一、錫六ツ
一、盆三束
一、水田子三荷
一、炭取参ツ

一、棕櫚箒六本
一、下駄九足
一、さし枕六拾う
一、手水鉢参ツ　桶を用
一、水越参ツ
一、木具参束
一、猪口六拾う
一、鱠皿六拾う
一、天目六拾う
一、五徳六ツ
一、火抓参ツ
一、そふけ
一、吸物椀六拾人前
一、ほふろく参ツ
一、銅あふりこ参ツ
一、わさひ卸参ツ
一、肴鉢

一、かゝり参ツ
一、酢醤油入
一、味噌入
一、斧
一、酒手樽
一、空鉢
一、白木綿湯衣六ツ
一、手拭六ツ
一、布巾九ツ
一、燈台九本
一、夜着
一、蚊帳
一、白箸
一、炭
一、薪
一、松　明し松也

御船付宿

〃寛政年ハ御上宿え手挟くるみ被相注候付、御下宿えは寝泊り無之候処、此節ハ夏季と申、何れも下宿へ相分寝泊り在之候事

〃御船付宿々義、御船付之衆多少之間、日々之如く揚陸在之、酒等相望被給へ候処、酒肴之用意方宿亭主ヨリ如何可仕候哉と相尋候付、右之入料、上ヨリ被成御聞候筋ニ無之、酒肴其他何品ニても被相望候時ハ、其品売物方え申遣分相調、其入目銀先方ヨリ各方え取立、売物方え遣候筈之手数ニ候、併日々之儀ニ候を売物方ヨリ調候て、諸拵ハ手届兼可申候間、一向宿亭主方ニて自分賄被心得、望ニ応し夫々取賄置、先方ニもあれり礼物相当ニ可在之候得共、其礼物を自分ニ所務致し候得は、強く迷惑も無之筈ゆへ、其通相心得候様、尤炭・薪ハいつれ入用丈、上ヨリ御渡可被下事

〃御船付之衆呑喰物其外何品ニても銘々入用之品々、宿亭主え被申問、宿亭主ヨリ売物方え掛合、調達候手数ニ候得共、自分ニて心遣いたし調遣候様申達候事

呑喰物

〃壱・弐番、参番下宿畳之儀、御郡奉行所へ申遣、床御借上ニして上より表替被成候事

〃壱番下宿松井文作宅、御借上右同断ニ候事

〃右参軒共御借上ニ相成候付、家移料として壱軒ニ九銭百匁ツヽ、御渡被下

〃二番御船付宿亭主土田卯右衛門ヨリ願ニ依、肥前様・唐津様御船付衆揚陸之節之取賄之入料、彼方ヨリ礼物在之候を以欠引いたし候ても不足ニ在之、九銭参拾九匁余願ニ依払切ニ被仰付、委細被仰出之細ニ在之、尤入料之儀は上使方と違、御船付ハ上より御払切被下候訳ニ無之、

肥前様

唐津様

水風呂

其段願書ニ添書を以申上候得共、上より御払切ニ被仰付、以後は例ニ不相成段被仰付候事

〃前川護兵衛取賄入料之分、彼方ヨリ請取候之分ニて相払、残銀拾八匁程在之候分被成下候事

〃肥前様・唐津様両御船奉行と此方船改頭役出会之入料、御用ニ付候義ニ付、梅野忠兵衛より願ニ依、払切被仰付、御下宿御船付宿ハ飾手桶無之事

〃△＜朱書き＞「但、左右板塀仕切、勝手口通行之分明ケ置候事」

〃壱番下宿大町住居松井文作へ表門無之候付、新ニ冠貫門建組、両開戸を入候事

〃二番御下宿佐護草使、三番御下宿豆酘郷草使、右御下宿、都合三軒ともに家移料として、壱軒ニ付銀百五拾匁宛御渡被下候事

梶山屋喜兵衛
藤井屋源治
足軽文吉伯父改
文兵衛
旅籠屋

〃御船付宿参軒え水風呂壱ツ充御用意ニ相成居候得共、既ニ此節は壱日ニ百人余一所風呂入として上り候得共、宿のミにて不足ニ付、御宿亭主心得を以、市中風呂屋へ遣し相済候事

御宿人足拾五人
山村屋
郷夫宿
市五郎

売物方

右之通申付候段、町奉行所ヨリ申来

賄〃敷物・食器御賄方ヨリ宿主え相渡す

〃右夫飯米之儀、竈夫之通ニして賄方ヨリ草使え貸ニいたし置、追て差引相極メ候事

一、売物方之儀、山口吉五郎宅御借上之義、相達候段申来

賄〃日町交幕弐張

〃丸挑灯壱張　　引両計

〃売物方え御勘定手代嶋井儀左衛門、御徒士目付三井田好右衛門被相付、諸品出入証印いたし候事

但、買物番も罷出候事

府内売物役

土田陣右衛門
馬場休右衛門
喜田正七
柴田武吉
龍井平兵衛

同所下代

鶴岡屋三右衛門
武末屋仁兵衛

同所升取
（池田屋三左衛門
永瀬屋甚兵衛
定夫　弐人
作
御作事申談相雇可申事　外ニ日雇
魚藁竈之者ヨリ日代り
相勤候事
（魚屋　壱人
八百屋　壱人
但、町奉行ヨリ差当テ公役ニて罷出候付、賃銀出之

魚・茶
〃売物諸色魚・茶ニ至迄少々充見合、店ニ出之
〃久田村売物方えも、府内売物方ヨリ諸色相渡候事

海人稼
〃縄船奉行ヨリ縄船釣上之魚、海人稼之鮑・さゝへ、売物方え差出候事
但、釣上之魚定尺ニ当、役々見分通ニ帳ニ記候事、魚取扱ハ魚屋ヨリ勤ル、尤縄船釣上之魚ハ御定直段を以売上、代銀売物方御算用ニ立相渡
〃縄船釣上之分而已ニてハ、瀑等之節不足ニて御膳部用差支候節ハ、自余縄船釣上之分其時々之立直ニて御買上可被仰付候間、売物方へ売込候様魚問屋中え御手筋を以御達在之候先形

魚類
〃海人船之儀、以前ヨリ召役ニて相勤候事と相見、稼上之鮑・さゝへ之代銀不被成下
〃五味正左衛門ヨリ佐野網方之肴、日々売物方え差出ス賃銀、飯米ともに御構無之、尤相納候魚類、雑魚ニて不御用立、以来御心当ニ不相成候事

豆腐屋

寛政年ハ追て銀弐枚被成下

府内豆腐屋　植田屋茂兵衛（浦田屋仁兵衛）

同饂飩蕎麦屋　綿屋太兵衛

但、豆腐屋・蕎麦屋之義、売物方近所へ致出店、御用相達格ニ候得共、宝暦年ヨリ銘々宿ニて致用意、入用次第御用相達候事と寛政年記録ニ在之

酒屋

〃上使御着之日、御浦入及延引候とか、其節之時宜を以漕船奉行并漕船之水夫中え御振回之握り飯、手寄之酒屋ニて焚立させ、売物方ニて夫々仕立、干物魚・香之物等相添、漕船奉行えハ紙ニ包、白木片木ニ据、御船奉行所申談、彼之御役所ニて差出ス、水夫中之分ハ町水入え相渡ス、銘々乗船ニて頂戴いたし候事、尤売物方え被相付候御勘定手代より心配いたし候事

〃此方之御船頭、彼方之御船頭衆え得御意候節ハ、御船付宿ニて参会在之、酒肴・吸物・小皿盛等見合差出候付、用意之儀売物方え罷出居、御勘定手代ヨリ致差図候事

用意物

一、上々白米壱石四斗

一、上白米五石七斗

用意物

白米

生酒

椎茸

鰤

一、御前味噌参拾四貫匁
一、次味噌弐拾九巻弐百五拾匁
一、上酒弐挺
一、生酒四斗六升
一、諸白壱石五斗
一、白箸四拾七袋
一、醤油四斗
一、酢壱斗六升
一、鰹節百拾節
一、葛粉九升
一、椎茸四斗
一、干烏賊弐拾四枚
一、昆布拾本
一、鰤四本
一、長鹿尾藻参拾斤
一、瓜香四拾六盆
一、木茸七升

白砂糖

一、白砂糖参斤
一、塩鴨九羽
一、小豆壱斗五升
一、胡麻参升
一、松茸百拾本
一、種油壱斗
一、魚油八升
一、塩壱石八斗七升
一、大豆壱斗
一、楊枝五袋
一、いりこ拾八斤
一、干鱈参拾八枚
一、炭七俵
一、薪五疋五〆
一、尾早岐拾参斤
一、掛茶拾弐斤
一、空樽七挺

大豆

薪

いわし

一、叺弐拾う
一、塩いわし
一、木綿袋九ツ
一、粕麸弐百く
一、素麺弐貫匁
一、漬大根参百本
一、灯心拾五抱
一、付木拾五抱

こんにやく

一、氷こんにやく百斤
一、干大根百拾本
一、貝杓拾本

からし

一、からし壱升五合
一、けし壱升
一、岩茸弐升
一、しょふか壱升
一、煮ひしき四升
一、そふけ六ツ

なす

一、味噌越一ツ
一、干瓢五百目
一、塩なす五拾う
一、かま鉾板参拾枚
一、天王寺蕪百ヶ
一、半紙弐拾参束
一、半切紙六百五拾枚
一、筆五拾本
一、上墨弐拾挺
一、四拾匁掛蝋燭四拾丁
一、参拾匁掛同百七拾丁
一、弐拾匁掛同弐百八拾丁
一、中結紙壱束七帖
一、白木綿壱疋
一、白布
一、渋紙参拾枚
一、むしろ五拾弐枚

白布

むしろ

一、七嶋参拾七枚
一、荷呉座七枚
一、すりこ縄五束
一、割（刻カ）多葉粉壱貫弐百匁　多葉粉
一、葉多葉粉拾斤
一、鬢付拾両
一、秤弐挺
一、鉄碇壱ツ
一、木綿幕壱張
一、魚尺弐枚
一、米船五ツ
一、手樽四ツ　弐升入・参升入
一、煙器弐拾本
一、扇七拾本　扇
一、元ゆひ拾八わ
一、地外縄百俵分
一、火縄参形　火縄

わらし

硯箱

一、丸藤四本
一、批杓六本
一、白木片木参拾枚
一、藁草り百八拾束
一、田楽串五百本
一、杓子四本
一、藁五束
一、わらし弐百五拾速
一、かや箒弐本
一、生麸五合
一、算盤弐丁
一、硯箱参ッ
一、三徳壱ッ
一、銅上戸　大小弐
一、薬鑵　大小弐
一、鉄鍋弐ッ
一、手桶五ッ

青合羽

大釜

上白米

一、天秤壱丁
一、戸棚壱軒
一、青合羽拾う
一、水田子壱荷
一、丸挑灯壱張　引両斗火用燭共
一、箱挑灯弐張
一、木綿幕弐張　店ニ張用同町交也
一、椀台壱ツ
一、金・銀・銭　御銀掛所より
一、大釜壱ツ
一、こしき壱組
　右御賄方ヨリ渡、且貸ニして相渡
〃上使御壱人前壱日上々白米一升八合、御用人同断壱升三合五勺、御次キ上白米九合当ニして、
味噌は見合入切ニ相極メ候事
一、上白米
　但、拾俵を突上ニして

一、上味噌参拾貫匁　糀壱斗八升合ニして
　　但、味噌ハ上より下迄追通ニして
右御巡検使之節、此節御順迄ハ御乗組ニ不相成義と相聞候段、売物方ヨリ申出ニ依、凡参日分ニ見、如是御用意方御賄方え相達候事
〃御宿々上下六軒分、筆墨・紙・油・蝋燭類、御賄方ヨリ兼て御宿亭主へ相渡候得共、若不足之節之為、売物方え見合差下し置、同所ヨリ借ニして相渡置ク、追て御賄方払ニ差立さセ候事

箱挑灯

賄〃箱挑灯弐張　　遠見番人貸
〃種油・付木・灯心

遠見番人

〃遠見番人之儀は、御徒士中人少差支候付、此節御船頭中え御番被仰付候事

山伏

〃山伏壱人、罷出候日ヨリ飯米壱升充被成下、夫之者壱人充御渡被下、右山伏は、筑前若松御着之御左右到来之日ヨリ相詰候付、其日ヨリ右之通御渡被下、挑灯弐張御貸渡被下

種油

〃丸挑灯壱張ニ付、壱夜種油六合充相渡、此節箱挑灯ハ御借渡ニ相成居候義ニ付、蝋燭相渡候様遠見番人中ヨリ申出ニ相成候得共、寛政年相渡候先形無之、箱挑灯は、御着船御届夜入ニ御届ニ相成節、灯用ニ候得共、此節昼之内御届相済候付不相渡段相答、不相渡段相添候、以来共御届夜入ニ不相成候ハヽ、相渡間敷事

〝遠見番所御番人之儀、此節ハ御船付侍中より引切相勤候様被仰付、就夫箱挑灯兼て御賄方ヨリ借渡ニ相成居候付、上使御入船之節、御船見へ夜入ニ相成候節、御届ニ上り候節之為メ借渡在之候処、当節御船見へハ朝之間ニて、御届は相済候得共、潮合ニて御浦入夜半ニ及、御届通用相燈候蝋燭之儀、下番渡として挑灯弐張ニ相成候付、壱張ニ付八丁当ニて都合拾六丁、賄方払ニして御渡被下、御船付侍中平山喜兵衛・浦田一郎治ヨリ申出候ハ、去春上使御下向ニ付、遠見番所引切勤被仰付置、夜分ハ四ツ時迄相詰、御入船之節も夜間相燈候付、蝋燭四拾五丁御渡被下候様と之書面ニ、御付紙を以左之通被仰渡

挑灯

見届候挑灯・蝋燭等御借渡被置候ハ、御着夜入之節、相用候為ニ平日取遣之分御渡可被下訳ニ無之、依て御入船夜入ニ付、一張ニ付八挺充を以、都合弐張分拾六丁、此節払切被下候、余は早々可令上納候、此旨可被相達候、以上

亥三月廿四日　　御勝手方支配

与頭衆中

御勘定奉行所　　可被得其意候

御本陣

作一、三畳切組三ヶ所　　御本陣

賄一、畳九畳　一ヶ所　　仮番所

同一、花色蛇目羽織六ツ

壱ヶ所足軽弐人詰、着用

作一、夫之者参人　壱ヶ所壱人充　御宿前仮番所之儀

賄一、木綿柿色羽織参ツ　伺ニ依相止ミ候事

右夫之者着用　委細伺之、細ニ在之

一、幕参張　引両計付　壱ヶ所壱張充

一、丸挑灯　引両計　壱ヶ所壱張充

一、茶碗九ツ　壱ヶ所三ツ充

一、七りん参ツ　壱ヶ所壱ツ充

一、手桶参ツ　壱ヶ所壱充

一、批杓参本　壱ヶ所壱本充

一、炭壱日百四拾匁充

作一、壱間角縄結一ヶ所

作一、畳弐畳

一、薄縁壱枚

賄一、木綿結柴羽織弐ツ　番人組之者着用

黒門内

一、棒弐本
一、夫之者壱人　昼計
一、幕壱張
一、丸挑灯壱張
賄一、七厘壱ツ
一、茶碗参ツ
一、手桶壱ツ
一、柄杓壱本
一、炭百四拾匁　壱日

黒門内
仮番所

御米蔵前

作一、三畳切組一ヶ所
一、畳参畳
賄一、木綿羽織弐ツ
一、棒弐本
一、夫之者壱人
一、幕壱張
一、丸挑灯壱張

御米蔵前
同断

打上

一、茶碗参つ
一、薬鑵壱ツ
一、七りん壱ツ
一、手桶壱ツ
一、批杓壱本

作一、三畳縄結一箇所
一、畳弐畳
一、薄縁壱枚
賄一、柿色羽織弐ツ
一、棒弐本
作一、夫之者壱人
一、幕壱張
一、丸挑灯壱張
賄一、七りん壱つ
一、茶わん参ツ
一、薬鑵壱ツ
一、批杓

打上

同壱ヶ所

中桁越

一、弐畳敷縄結一ヶ所
作一、畳壱畳
一、薄縁壱枚
一、番手之者弐人　番人
賄一、柿色羽織弐ツ
一、棒弐本
作一、夫之者壱人　昼斗
一、幕壱張
一、七りん壱つ
賄一、茶わん参ツ
一、薬鑵壱ツ
一、手桶壱ツ
一、批杓壱本
作一、弐畳敷縄結一ヶ所
一、畳壱畳
賄一、薄縁壱枚

中桁越

同壱ヶ所

宮之内

作一、番手之者弐人
賄一、柿色羽織弐ツ
一、棒弐本
作一、夫之者壱人　昼計
一、幕壱張
一、七りん壱ツ
賄一、茶碗参ツ
一、薬鑵壱ツ
一、手桶壱ツ
一、批杓壱本

宮之内　同一ヶ所

立亀浦

一、参畳縄結弐ヶ所
作一、畳四畳
一、薄縁弐枚
一、幕弐張
一、丸挑灯弐張　立亀
一、七りん弐ツ

立亀浦　同弐ヶ所

一、茶碗六ツ　立亀浦仮番所、表書札方与頭方共書留ニ無之、此節ヨリ取設ニ不相成、相止候事

一、薬鑵弐ツ

一、手桶弐ツ

〈朱書き〉「立亀仮番所ハ組中壱人・夫之者壱人、昼夜番被仰付候事」

久田御船口

賄一、幕壱張　久田御船口

一、三畳縄結一ヶ所　波戸先

但、縄結壱ヶ所、御作事方ニて出来幕壱張相渡、其余御船奉行所夫々手当いたし候事、番人等も船付ヨリ相勤候事

市ヶ峰

作一、二間角縄結ニして　市ヶ峰夜廻番所也

賄〃借渡之諸品ハ之夜廻方之通

一、張弓五挺　御弓方・御鑓方ヨリ夫々手当可在之候事、此方ニ不相拘

一、鳥毛鑓五本

〃弓掛、鑓立・三ツ道具建、御作事方ニて可出来事

一、鉄砲五丁　外ニ鉄砲五丁伺ニ依御飾増被仰付、委細被仰出候、細ニ在之

一、三ツ道具壱通
作一、飾手桶六ツ　貝木二本添
一、木綿幕二張
但、幕之儀寛政年ハ壱張ニて相済候と相見候得共、壱張ニて可難行届候間、一張相増如是用意候事、渡し方は右之訳を以て掛合事

波戸

一、丸挑灯弐張　内壱張寛政年ヨリ相増
一、木行灯壱間
一、硯箱壱通
一、箱挑灯壱張
賄一、手桶壱ツ
一、批杓壱本
一、七りん壱ツ
一、薬鑵壱ツ
一、多葉粉盆参ツ
一、茶碗
一、灯台壱本

波戸

御番所
此御番所小船番所ニて相済ム

一、薄縁五枚
一、紋紙屏風半双
作一、夫之者弐人
一、炭・油・付木・灯心（ママ）・蝋燭
一、張弓五挺
一、鳥毛鑓五本
御作事方ニて弓掛・鑓立可出来候事

船御改所

一、三ツ道具壱通
一、飾手桶拾う　貝木弐本添
賄一、木綿幕弐張
一、箱挑灯壱張　御紋付
一、丸挑灯壱張　同断
一、木行灯壱軒
一、薄縁壱枚
一、紋紙屏風半双
一、張弓拾挺

船御改所

一、鳥毛鑓拾本　　此方ニ不相拘候事
一、鉄砲拾丁
一、猩々緋鑓印拾う　表書札方咄合、用意不致事
御作事方ニて弓掛鑓建出来之事

一、三ツ道具壱通
一、飾手桶六ツ　　貝木弐本添
賄一、丸挑灯弐張
一、灯台弐本
一、木綿幕弐張
一、紋紙屏風半双

火消番所

一、火消番所之儀ハ三根郷草使御借上ニ相成候ニ付、座次之分計借上ニして相済、火消番之儀御馬回大小姓ヨリ引切被仰付候事

御雪隠

作〃御道中用、引廻し御雪隠三通御作事方用意、持廻り之事
賄〃田舎下御荷物宰領木綿結柴之羽織六ツ用意之事
但、馬指組之者六人、以前ヨリ自分羽織也

御賄掛田舎え持越之御三人様御用御椀盤左之通、宰領配膳之者え申付候事

御椀・箪笥壱ツ之入合

〈朱書き〉「持夫、御作事方ヨリ六人御郡ヨリ六人、御初駕前日大山村迄差下ス」

一、黒鋳掛椀三人前　本二吸物椀共

吸物椀

一、同飯次壱ツ　貝木共

一、同湯戸壱ツ

一、宗和形之膳参人前　寛政年ヨリ田舎御用之分、宗和形ニなる

一、引盃参枚

引盃

一、木具参膳

一、通ヒ片木五枚

一、鱠皿参枚

一、天目参ツ

一、御肴鉢五枚

肴鉢

一、吸物椀参ツ

一、鉄真鍋壱ツ

一、御簡錫壱ツ

一、小皿参ツ

小皿

詰め所

〃此方御役々詰所中村太玄住宅御借上被仰付置候処、供部屋之儀、以前ヨリ御出来ニ相成来候処、同所門内手狭在之、右供部屋取設場所無之候付、同所向之町家店御借上ニして、御済可被成哉之段御伺申上候処、町奉行所申談候様御達被成候ニ付、役談之上、堀屋庄兵衛住居・太玄住居向う、上ハ店下タ店とも御借上ニして、別段供部屋御取設ニ不相成相済候事

〃中村太玄ヘ家御借上ニ付、御用済之上銀弐枚被成下候事、委細被仰出之細ニ在之

但、家主ヨリ願出ニ付、家内余間之住居本家竈所前通炊所之分屏風仕切ニして、御貸渡被下候事

御乗物

〃御乗物壱挺

但、若殿様御控之分拝借ニして

〃同壱挺

田嶋左近左衛門殿ヨリ御借上、損繕夫々取計事

〃同壱挺

平田大江より御借上、右同断

右御用意被置候処、前広御用達従勝本越候訳ニ依、御備ニ不相成候事

御駕籠夫

一、上使御三方様御駕籠夫参拾人

内、拾五人、府内者、御作事方ニて召抱置

拾五人、郷夫、御郡奉行所ヨリ差出ス

上使御着前広、御用掛与頭田嶋所左衛門、御勘定奉行人馬下知役、其之外筋々之御役々於使者屋見分在之、人馬方え引渡候事

田舎下り

〃上使ニ付田舎下り手配、左之通取計候事

田舎御宿飾
御作事掛
古川武左衛門
大工小頭壱人
書手壱人
御勘定手代
内山繁左衛門
御勘定所下代壱人
御作事手代
三木経右衛門
書手壱人

見合陸地ヨリ御先キ出立之事

陸地ヨリ御付廻り相勤候事

御行列ニ付御跡より
陸地出立之事
右陸立被仰付候事

売物役

〃御賄掛旅籠下知役売物役茶屋亭主以下、先規百石積位之船弐艘ニ乗分り、壱艘は佐賀村迄壱

御賄掛
大山村
売物役

艘ハ大山村迄借入被差越候付、此節も百石積ミ船弐艘用意之処、御用荷物多数ニて全数難積入、別段小船借入差下候付、都て御不便用之上、船借賃之御出方も相増候付、重てハ荷物見計を以、御借船取計可申事

但、佐賀村・大山村迄御借船を以送り付ケ候上ハ、村ヨリ先々々え送り候事

御賄掛
川本茂十郎
波多野新左衛門
大山村
下代　入右衛門
豊村
下モ男　傳治
仁田村
売物方料理方え被相付
下目付　重兵衛
売物役
小林與兵衛
大山村
神崎喜兵衛
鶏知村
茶屋亭主
水間與吉
大船越堀切八割
同

佐賀村

しふり之領　いこひ曽根　森田與兵衛
長曽根　同
黒長　糸瀬重太郎
旅籠賄下知役
佐々木大左衛門
俵幾左衛門
扇五兵衛
料理人　九人
板本　六人
豆腐屋　壱人
うとん屋　壱人
魚屋　壱人
八百屋　壱人

右御借船ヨリ大山村迄差下ス

御賄掛
井常右衛門
大宮吉左衛門

佐賀村

佐須奈村

鶏知村

佐須奈村　下代　惣七

仁位村　下モ男　信吉

同

琴村　原田宇右衛門

深山村　田口甚七郎

鶏知村　下代　勘助

下モ男　忠助

売物方御料理方へ被仰付

下目付

喜兵衛

源治

売物役

佐賀村　金谷又右衛門

松井甚六

同

琴村　丸嶋八右衛門

仁田村　熊中清兵衛

深山村
茶屋亭主

豊村　同　小嶋甚兵衛
　　野田市兵衛
深山村　同　梯忠右衛門
　　栗山差兵衛
佐須村　同　諸岡吉蔵
　　津原伊右衛門
櫛之峰　伊奈坂　茶屋亭主　荒川正助
かるさ口　同　幸山甚吉
上之原　同　山城元右衛門
茶屋隈　同　井口平吉

旅籠賄下知役
信田武右衛門
桟原惣右衛門
箕原喜七郎
料理人　九人
配膳　九人
板本　六人
豆腐屋　壱人
うとん屋　壱人

右御借船ヨリ佐賀村迄被差下事

久田村売物役
岡村重兵衛
小嶋涼治

右は送り方之儀、御郡奉行所へ申出候事

〃田舎売物方え被相付候下目付之儀、此節伺ニ依、料理方をも相兼、請取渡之通帳ニ留印致し候事、委細伺之細ニ在之

〃御勘定手代持下り人参膏、大山村・佐賀村ニて、杉村右馬助殿より差出候様御差図ニ付、差

久田村売物役

人参膏

宿駕籠

出候処、上使御一方様七丸宛、御用人壱人え参丸充遣事

〃宿駕籠四拾弐丁此節用意方御達ニ相成候処、御国え平常入用無之品ニて出来方心得之人無之、尤手本弐丁出来見候得共、不御用立候付、田代え及注文候処、運送御不便用之訳を以、見本ハ壱丁送越候付、此許ニて大工頭青柳善作え及注文、壱丁銀参拾匁ニして、外ニ左之通御賄方ニて相払相渡候事

一、銀弐百六拾四匁　藤拾八本代
一、同九匁四分五厘　壁縁弐拾壱本代
一、同六匁七分五厘　荒板釘千五百本
一、同九匁弐分四厘　四寸釘百六拾本代
一、拾参匁五分　玉よま参玉代
一、同拾壱匁弐分　星釘八拾弐本代
一、同六拾参匁　手間代
一、同参匁　墨渋代
一、同九拾八匁七分　塗手間壱枚
九銭壱匁六分充

〈朱書き〉「板分渋墨染候処、雨天之節等流落夏ハ不宜候付、重て少し見計出来可申事」

但、駕籠後口え建候板黒抓合塗ニして

〆銀四百七拾八匁八分四厘

右之通相渡候事

大坂注文

〃上使御用人以下侍中乗用駕籠ハ御先格之通、安駄駕籠拾丁大坂注文ニして、取下ニ相成候処、現御入用七丁余駕籠参挺之内、田舎御付廻り御用達乾一郎兵衛一挺、医師吉江令庵え壱挺拝借被仰付候事、此節ハ御余分在之候付、右之通御用達・医師共拝借ニ相成候得共、元来ハ自分用意ニ相見ル

夜具支配

夜具支配

和滝藤左衛門

上下弐人

組中参人

右之通兼て被仰付置候付、御出立跡御宿亭主より絹夜具参拾六通相請取、右荷拵用七嶋筵細引荷、桐油ハ兼て御賄方ヨリ貸ニして、相渡置候事

金弐百疋　宿亭主

同五拾疋　下宿亭主

金弐百疋

出張田代

勘定奉行

銀弐枚

御賞

同五拾疋　町役之者

右は、御巡検使久留米御止宿之節、出張田代役之旅宿へ遣出之分、此節払切ニ被仰付候間可被得其意候

亥正月十五日

右御口達書小川丹下殿ヨリ小宮勝右衛門え被成御渡

覚

被成下之細

御勘定奉行

吉村儀右衛門

銀弐枚ツ、

添勘定

藤正左衛門

右は、御巡検使御用掛被仰付候処、御時体柄深く令勘弁御費無之様、彼是精勤苦労せしめ候付、為御賞賜右之通被成下候

御勘定手代

嶋井儀左衛門

内山繁左衛門

公木弐疋宛

紗綾
郡奉行
郡手代
銀参両

同仮役
古谷新八郎
右同断ニ付、彼是苦労せしめ候と相聞ニ付、御褒美として右之通被成下候
御郡奉行
紗綾弐巻
高崎翼
右は、御巡見使御下向ニ付、御用掛被仰付候処、彼是令精勤候間、賞賜として右之通被成下候
御郡奉行
小田馨之介
紗綾壱巻
同佐役
龍田右兵衛
右は、同断之節、御用掛ニは無之候得共、翼同前申談労勤せしめ候間、御賞賜として右之通被成下候
御郡手代
阿比留伊右衛門
中原卯兵衛
銀参両充
成田貞治
小宮弥内

筆頭添役
公木
日帳付

御郡奉行所手代中

同弐両充

右同断之節、令精勤候付、御褒美として右之通被成下

幾度又右衛門

紗綾弐巻ツヽ

乾一郎兵衛

右は、御巡検使御下向ニ付、御用達被仰付置候処、彼是令精勤候付、御褒美として右之通被成下

筆頭添役

公木参疋

扇半右衛門

案書役

村田重右衛門

佐藤恒右衛門

日帳付

大嶋廣吉

上原隆右衛門

右は、御巡検使御用掛被仰付置、右御用之儀は於公辺も重キ御決と申表掛、諸国釣合ニ依、一旦之誤り取返不相成、大切不及申、第一御役儀ニ付御用も繁く、少之行違も御首尾合ニ拘、他

国ニ響、尤重キ次第ニ在之、不顧心労、他ニ難較品ニ依、既ニ寛政之度にも重キ御沙汰被下候決も候得共、御時体無其儀、追々御沙汰之品も在之候、尤当春以来人少ニも有之候処、双方無御用欠令精勤候事故、別段御内々右之通被成下候、猶又此上可令精勤旨及内達候間、可被得其意候

十月廿六日

右将監殿ヨリ小宮勝右衛門え被成御渡

案書役仮役
畑嶋七郎右衛門

公木壱疋

右は、当春、御巡検使ニ付、役所繁多ニ在之候処、人少之上、同役御用掛被仰付置候付ては、御当用七郎左衛門壱人ニ引請、少之御用滞も無之様令出精候付、御内々為御褒美、右之通被成下候間、可被得其意候

右、左近左衛門殿ヨリ小宮勝右衛門え被成御渡

銀掛所下代
熊吉

鳥目参百文

右は、御巡検使ニ付、田舎御止宿村々麩細工業之面々、火急之儀ニて難行届処ヨリ、兼々麩細工之道相心得居候と相聞御雇申付、田舎え差下候処、大造之仕事ニて昼夜無差別、別て骨折令苦労候段、其筋ヨリ申出之品も候付、褒美として右之通相与候

案書役
公木

鳥目

書手

曲り海人

朝鮮

書手

鳥目弐百文　　市五郎

右同断ニ付、麸細工方え相付召仕候処、万端心得宜敷く、彼是格別令苦労、其内ニハ紙類達方延引ニ付ては、所々え飛脚として差出し、都度々々用便ニ相成候てハ、少し之手後レも無ク、別て令骨折候段、其筋ヨリ申出之品も候ニ付、為褒美右之通相与候

右之通可被申付候、以上

十月廿六日　　御勘定奉行所　年寄中

曲り海人

鳥目参百文宛　　肝煎中

右は、当春御巡検使御迎送ハ素り地方筋、且朝鮮えも火急海人召仕候処、度毎船仕廻尖ニ在、近年難渋渡世之中無貪着（額着）用便相成候義不少、畢竟兼々舟方行届、来服（帰服）宜キ故と相聞、寄（奇）特事候、仍て為褒美、右之通相与候、猶亦可精入候

曲り海人中

右同断、度毎心得宜く差働用便不少殊勝之者共ニ付、会釈可被申付候

十月廿六日　　御勘定奉行所　年寄中

障子張替

大坂注文

鳥目壱貫弐百文　　麸細工　熊蔵

右は、御巡検使御旅宿障子張替且繕等ニ付、府内ハ素り田舎えも両度差下候、積立等御時勢を相弁、何分御入目相減候様其筋ヨリ相含置候付てハ尚更、無益之義無之様綿密ニ積立、彼是御入目大ニ相減、第一細工方之儀昼夜之差別なく精ニ入候故、尖ニ成就ニ至、少之御用滞も無ク、初発より相心得居候ニ付ては、何事も諸般之差配方一己ニ引請、御用便不少、別て骨折令苦労候付、其筋ヨリ申出之品も在之、殊勝之至ニ付其段及沙汰、為褒美右之通相与候

鳥目壱貫五百文　　下代　半吉

右は、御巡検使御下向ニ付、御用意物之内、大坂注文之品々取揃方之為、態々召仕候処、大坂之義、当時行詰之御勝手向諸方差引相滞候処より調物到来兼居候、然処上使ニハ敏く、御発駕ニ至居候と相聞、左候得は間後レニ相成候て不相済段、爰許之様子令見聞居候付ては役中えも具ニ申出、職方先々え罷越、都合能取計、品々取揃、船中之義も昼夜を不分通船方乗組之者共相諭し、飛船弐艘ニ可積入を種々様々として一艘ニて積下り、上使之間後レニも不相成様、彼是差働候付、御都合能御手当相立、是偏ニ半吉平素相捌ケ候ものニて、来(気)配り宜く、其身之労を不厭、右之如く格別骨折出精之段申出之品も候付其段及沙汰、褒美として右之通相与候

右之通可被申付候、以上

十月廿六日　　御勘定奉行所　年寄中

町人

御用縄船

公木弐疋　　町人

馬場屋　喜右衛門

右は、御巡検使ニ付、御用縄船請持申付候、就夫以前ヨリ五艘充も不相備してハ御用難行届相聞候処、其身鯛縄船弐艘引下居候内、壱艘御用縄船ニも手当置候得共、壱艘之釣上ニて不行届節ハ、弐艘之魚類直段引下、御用立候付ては、其身之迷惑不少候得共、即今之御時勢相弁、自分之難渋少しも無貪着、御用之重キを第一と相心得、府内・田舎御在留中少しも御用欠不相成様取計、仍ては御入目も相減し、御為宜差働候勤振殊勝之至候段、筋々ヨリ申出之品も在之、軽キものニは稀成心得之者ニ付其段及沙汰、為褒美右之通相与候

公木壱疋　　町人飯野屋

源兵衛

御用魚

右同断、請持御用魚不差支様差働、此者共平素心得宜者と相聞、上使御在留中御用欠無之様心配令骨折候段、申出之品も候付其段及沙汰、為褒美右之通相与候

右之通可被申付候、以上

十月廿六日　　年寄中

町奉行中

御勘定奉行所　　可被得其意候

年行司

宿亭主

下宿亭主

金弐百疋

真綿参斤

銀五両充

同参両充

年行司

遠藤忠蔵

御宿亭主

桜井一右衛門
高嶋庄右衛門
三木重左衛門

御調物御用承

荒木藤右衛門
高嶋六兵衛
春田與兵衛
桜井半右衛門
梅野武七

御下宿亭主

藤崎長左衛門
柴田武吉
東田卯右衛門

府内売物役

田舎売物役

真綿弐斤

平山治右衛門
馬場休右衛門
喜田正七
武末喜兵衛
黒岩儀右衛門

銀参両充

田舎売物役

丸嶋八右衛門
熊中清兵衛
岡村重兵衛
小島孫治

銀弐両充

御船付宿亭主

土田卯兵衛
豊田善九郎
前川護兵衛

同弐枚

網魚御用

五味正左衛門

鳥目七百文充

町水入　四人

八百屋　壱人
肴屋　壱人
同壱貫五百文充

右は、今度御巡検使ニ付令苦労候付、為御褒美右之通被成下候、此旨可被相達候、以上

十月廿六日　年寄中
町奉行中
御勘定奉行所　可被得其意候

鳥目壱貫文　町人
堀屋重兵衛

右は、中村太玄居宅近所ニ付、役々供廻休息所ニ借上、御着ヨリ御出帆迄多日之間軽輩昼夜相詰候付ては踏荒し、色々雑費も候得共、軽き身分ながら少しも不相厭、彼是用向相弁、別て殊勝之者ニ付、為褒美右之通相与候、此旨可被申付候、以上

十月廿六日　年寄中
仁位格兵衛殿
御勘定奉行所　可被得其意候

六十人

窮民差引役

金弐百疋　　前川松兵衛

右は、最前年行司勤中、御巡検使ニ付令苦労候付、為御褒美右之通被成下候、此旨可被相達候、以上

十月廿六日　　年寄中

町奉行中

御勘定奉行所　　可被得其意候

窮民差引役

鳥目壱貫五百文　　平七

町会所書手

同壱貫文　　勝五郎

右之者共、御巡検使ニ付、彼是骨折令苦労、兼て御宛行も不被下者共ニ付、此節申出之品も候付、為褒美右之通相与候、以上

十月廿六日　　年寄中

町奉行所中

御勘定奉行所　　可被得其意候

年行司

夜具・器物

白布壱疋　　年行司

遠藤忠蔵

右は、御巡検使御用夜具・器物類悉皆上え御用意之儀ニ候得共、当今御時勢と申、中々大造之儀ニ付、不足之分町ヨリ御借上被成度、依之其段役々ヨリ相達候処、御時体令感服、町家之内、可在左面々え申達注文通為致全備、尤寛政年上使御家来絹夜具不用ニ相成、木綿夜具急ニ用意為相成儀ニ付、当節ハ両様行届候丈手当相立置ニ付、着船之上果て絹夜具不被相用向も在之候得共、少し之不都合も無之、加之町家え役前ニ相当候もの共も預之、勤向少しも無滞、大切ニ相勤候処ヨリ、手違之儀も更ニ無之、夫役之儀ニ付ても入組之義もなく、諸般手配能懇切差張（配カ）、彼是格別出精令苦労候と相聞候付、為御褒美右之通被成下候

宿亭主

六十人

白布壱疋

前川松兵衛

右は、最前年行司勤中、御巡検使御下向ニ付、右同所諸般手配能彼是格別出精令苦労候と相聞候付、為御褒美右之通被成下候

御宿亭主

桜井一右衛門

高嶋庄右衛門

御調物御用承

銀四拾五両総中　荒木藤右衛門
高嶋六兵衛
春田与兵衛
江口左兵衛
桜井判右衛門
梅野茂七

右は、御巡検使御三方御宿亭主并御用承被仰付、御宿え相詰候処、御宿々御備之諸品夜具・器物類ニ至、所持分差出、尤上え御手当有之品々之内ニも面々持合之分ハ持寄ニ取計、御膳部之御賄ニ至り誠ニ自分之事ニして深切（親）ニ相勤、上之御手入無之様差配候故、人夫召仕も相減、当時之御勝手向相弁候処より万端心を用、第一上使之重処令勘弁大切ニ相心得勤向行届候処より、既御宿亭主之儀ハ、上使御方御挨拶向も在之、別ニ一右衛門義ハ追々御沙汰在之趣等御用達ヨリ申出も在之、藤右衛門義ハ御宿亭主之繰上ケニ相成、取分令苦労、何れも尤之勤振ニ差配行届候故、少し之御手入もなく御帰帆ニ至り、別て出精令苦労候と相聞候付、為御褒美右之通被下之候

町乙名
銀弐両　内山文次郎

右は、持役預之勤ハ勿論、中比ヨリ下宿亭主被差加候ては、彼是労勤不一形候付、為御褒美右

町乙名

之通被下之候

六十人

平山治右衛門
馬場休右衛門
喜田正七
武末喜兵衛
黒岩義右衛門

白木綿壱疋充

白木綿

売物役

右は、御巡検使府内売物役被仰付無滞相勤、算用等も尖ニ相済候、売物役之義ハ第一御膳部御用之諸品取扱候事ニて、別て心遣手張候勤柄と相聞候処、御時勢相弁、御費筋無之様、右之者とも格別令出精、御算用等も尖ニ差立并骨折令苦労候付、御褒美右之通被下之候

右之通可被相達候、以上

十月廿六日　　年寄中

町奉行中

勘定奉行所　　可被得其意候

日帳付

中御形日帳付

銀弐両　　山岡直五郎

右は、御郡手代仮役勤中、御巡検使御下向専ニ付、無手抜様御用筋精勤ニ付、御褒美として右も通被成下候、以上

十二月十三日　　御勘定奉行所　樋口弾正

八組小頭中

八組中

右は、御巡検使御下向ニ付てハ、八組中不足ニ有之、郷足軽をも御雇申付候程之義ニ在之、何れも格別令苦労、足軽四組ハ別て出精令骨折候と相聞候付、称美申付候

馬差組之者　六人

御荷物宰領同　六人

鳥目三百文充

右同断之節、一統心を合、深切ニ相勤候付、彼是御役人気服能、田舎御巡検中府内御逗留之内ニも難渋ニ可及と存候儀ハ内分ニて、穏ニ取扱彼是出精令苦労候と相聞候付、為褒美右之通相与候

御駕籠頭

三人

同参百文充

右同断、田舎御巡検中御駕籠舁之者え差図方宜敷、府内御発駕之日ニハ雨天ニて、道筋悪く相成、御通駕ニ差障候程之義と相聞候得共、小頭共差図方宜心を用候故、少し之御別義も無之、

八組小頭中

御駕籠頭

格別令苦労候と相聞候付、為褒美右之通相与候

右之通可被申付候、以上

十月廿六日　　年寄中

与頭衆中

御用人中

御勘定奉行所　可被得其意候

下目付

下目付御雇

鳥目弐百文　　直治

直右衛門

田舎御付廻

右は、御巡検使御下向ニ付、田舎御付廻申付候処、御通駕之前後御途中御泊村昼夜立廻、御締ニ相成候と相聞、別て令骨折候付為褒美右之通相与候、此旨可被申付候、以上

十月廿六日

大目付中

御勘定奉行所　可被得其意候

上乗

上乗　市蔵

御船添

御船手

佐兵衛
近左衛門
伴五郎

御船添

源太
善助
曽右衛門

御船手

吉右衛門
文右衛門
善兵衛
長吉
吉蔵
作右衛門
九右衛門
庄左衛門
孫平

鳥目参百文充

御船手

喜八
清右衛門
善吉
利吉
平七

右は、御巡検使御下向ニ付、先導船御用達乗船ヨリ勝本え召仕候処、御往還共風勢不宜と相聞、役々差図ニ随差働、彼是令骨折候付、為褒美右之通相与候

御船手御雇

米壱斗五升宛

喜平
良助
重五郎

右は、御巡検使御下向ニ付、御船手差支御雇申付、御迎船ヨリ勝本え召仕候処、何れも滞米無之もの共ニ付、本組同様之御渡物も無之可令難渋之処、御時体令感服、御歎筋不申出、殊御着船之節は洋風ニて、漕渡も同様ニて、別て出精令骨折候と相聞候付、為褒美右之通相与候

右之通可被申付候、以上

十月廿六日　　年寄中

箕原九八郎殿

御勘定奉行所　褒美之義可被得其意候

銀弐枚　筆頭添役
扇半右衛門

同拾八両宛　案書役
村田重左衛門
佐藤恒右衛門

右は、御巡検使御用掛被仰付置候処、彼是精勤令苦労候付、為褒美右之通被成下候

案書役
銀拾八両宛　平山新蔵
同帳付
大嶋廣吉

公木弐疋宛　上原隆右衛門

右同断、御用掛ニ付てハ彼是苦労せしめ候付、右之通被成下候

与頭手代
銀拾参両　古川俊四郎
同書手

案書役

公木

阿比留全兵衛

三浦衛七

同五両宛

右同断、御用掛被仰付置、格別令苦労候ニ付、御褒美として右之通被成下候

勝本役

小田三十郎

銀参両

右同断、御下向ニ付、彼地ニて先規之通諸手配取計、彼是精勤令苦労候付、為御褒美右之通被成下候

中村太玄

留守

銀百弐拾匁

右は、御巡検使之節、居宅役々詰所御借上ニ相成、数日之間多人数之役々相詰、御用立候次第被及御沙汰、為御褒美右之通被成下候

勝本役

川本茂十郎

銀七両

右同断之節、彼是御用便宜令苦労候付、為御褒美右之通被成下候

賄掛

御徒士目付

内野半右衛門

銀二両

右同断、田舎御付回被仰付御締宜令精勤候付、為御褒美右之通被成下候

手桶

たはこ

きせる

十月廿七日　　蕃建直人

御勘定奉行所

一、御茶水桶参荷　錠落し

一、御手桶参ツ

一、御手洗参ツ

一、御手拭掛参ツ

一、晒布御手拭参ツ

一、批杓（柄）参本

一、朱竿煙器六本

一、塗御たはこ盆参通

一、きセる弐拾本

一、茶碗拾五　三箱ニして壱箱ニ五ツ宛

賄一、薬鑵参ツ

一、七輪参ツ

一、茶碗弐拾う

一、煎茶参包

小早下知役
雪隠船

一、たはこ盆　内五ツ　張ニして
　　内拾う　白木ニして
一、炭次参ツ　切炭添
一、茶台参ツ
右之通、小早下知役え相渡、仁位村え差下ス、御船頭也
作〃仁位ヨリ樽之浜え御渉り之節、雪隠船参艘之切組御作事方用意
作一、紺木綿引回参張
一、桐油参枚　壁・屋根用
〃仁位御渡り小隼御船頭茶・たばこ盆心配方難相届段申出候付、相伺候処、以前ヨリ船頭より之差配ニ付、出記録拝見可被仰付候間、書記方承合候様仁位渡御船頭え御手筋ヨリ御達ニ相成候事
　但、寛政年以前ハ表大小姓ヨリ乗船乗組被仰付、御茶道も御付廻り之義ニ付、差配いたし候義と相聞候処、寛政年ヨリ右両役被成御引候付、御船頭ヨリ差配致し候義と相聞、其通ニ相成居候得共、此節ハ田舎え御茶道御付廻り被仰付候故、御茶道ヨリ差配いたし相済候得共、御茶道不被召仕節ハ、御船頭ヨリ差配可申事
〃寛政年之節迄ハ、御船中ニて御杉重被進候義と相見候得共、寛政年ヨリ相止、此節右御杉重被進□□□□

御船奉行所

上乗船頭

日吉丸

〃上使御着之節、舸子看板之儀、御船奉行所用意之積ニて、此方ニ不相拘

〃賄御着・御出船之節、漕船合印用当浦端船用旗参拾参、御賄方ヨリ相渡候事

〃御巡検使ニ付、御船奉行所手配之写

御巡検使御下向被成候付、御迎送ヨリして御在留中御取賄方、追日可被仰出御事と奉存候得共、御用意物等ハ俄難相調品も御座候付、寛政年御下向被成候時、被仰出候御形を以先手当相立、用意物等取調度奉存、左ニ書載仕奉入御披見候間、以御付紙可然御差図被仰出候様奉希候、書留等不委年数ニ相成御事故、諸事不分ニ御座候処より、不都束之儀可在御座候得は、可然御聞得被成下置、其筋々御吟味被仰出御達ニ至候様奉希候、此段御伺申上度如是御座候、以上

九月　　御船奉行所

覚

弐拾六挺　　上乗船頭壱人

一、日吉丸壱艘　　御船添壱人

壱州迄御迎使者乗船　　御船手六人

水夫七人

寛政年御迎ニ被召仕候乗組如是御座候、当節も右之通可被仰付候哉

御船頭両人
沖船頭壱人
御船添壱人
御船手参人
水夫四人

長盛丸

拾八挺

一、長盛丸壱艘　　壱州迄先導船召仕候

但、寛政年ニハ小鷹丸・日吉丸弐艘被召仕候付、長盛丸乗組之人数相知不申候付、来聘之砌御役人方迎送之例を以如此

寛政年之例ニして

天道船

一、天道船弐艘　　五人乗ニして御借上

右は、壱州迄御迎送小早弐艘用ニ御座候、看板着用不及哉ニ相見申候、当節ハ如何可被成哉、隼船乗之外は、看板着用之類例相見不申候

〃右乗組御船手拾人御宛行、御合力銀七匁五分ツ、取切、白米壱日壱人九合宛

〈朱書き〉「此御役所付紙　御船手御宛行之儀、御極も御座候事故、御船奉行所申談様仕度奉存候事」

但寛政年は、八合宛ニ候得共、諸旅被召仕候今程如此

〃同水夫拾壱人

壱日壱人賃銀壱匁参分五厘充、白米八合ツ、ニ、寛政年之例ニ相見申候、今程時体違候得は、

右賃銀ニて雇入可相成哉、御為宜様省略仕可申候

〈朱書き〉「此御役所付紙　賃銀・飯米之義、寛政年之形ニて被相雇候者可在之哉、猶又御便利筋御船奉行所申談候様仕度奉存候事」

御迎送小隼

一、御迎送小隼弐艘、武器飾方相見不申候付、来聘砌御役人様御迎送之例を以如是

一、鉄砲弐挺　猩々皮袋ニして

一、木綿火縄弐形

一、張弓弐丁

一、靭弐甫

一、猩々緋御投鞘鑓壱本

右、日吉丸用

〈朱書き〉「此御役所付紙　武器類之義此御役所へ相拘不申、其筋之御役所々々え兼て拘在之候ハヽ、其手当可在之と奉存」

鉄砲

一、鉄砲弐丁

一、木綿火縄弐形

一、張弓弐挺

一、靭弐甫

十文字鑓

一、十文字鑓壱本

右、長盛丸用

一、漕船参拾艘　　壱艘五人乗宛ニして

寛政年御入船之節如是、内六艘ハ小使船等を以、此御役所ヨリ差出、舸子ハ町ヨリ之出夫ニ相成候と相見候得共、当節ハ小使船居合不申候付参拾艘高、当節ハ町ヨリ之手当ニ被仰付度奉存候事

〃右参拾艘之舸子不揃之分ハ、町ヨリ銀取立ニ相成候を以郷之出夫を為召仕と相見、当節も不足之分其通被仰付度奉存候事

〃右漕船夫着用看板百五拾う、御在合無之候付、御賄方御在合柿色羽織を以御償被成たると相見申候処、今程御賄方此御役所御在合無之候得は、新規出来可仕外無之、相見申候

〈頭注　朱書き〉「此御役所付紙　御船奉行所ニて用意積り申談罷在候事」

〃町ヨリ之出舸子を以仁位御渡船ニ召仕たると相見、御待請ヨリ御出帆之間、町夫を以召仕候と相見候得は、日々之飯米御渡被下候義勿論、町夫不揃之時は、銀納メ郷夫召仕たると相見、其賃・飯米、壱日白米壱升賃銀参匁と相見、陸ニて召仕候節ハ白米壱升銀壱匁五分充、海陸共に不召仕日ニは白米壱升のみニて、寛政年相定居候哉ニ相見申候

〈頭注　朱書き〉「此御役所付紙　此賃銀・飯米町用銀差引と相見此御役所え相拘不申候事」

〃漕船夫ニ限り御着当日、漕船下知人焚出し被成下候と相見申候、此節も焚出し可被成下候処、何方ヨリ差回候哉、寛政年書留ニ相見不申候

人夫

磯船

伝道

〈朱書き〉「此御役所付紙　御着当日漕船下知人・漕船夫え焚出し被成下儀、定式之義ニ無御座、其節之時宜ニ依被成下候事と相見申候」

一、人夫参拾人　　御荷物揚夫

但し、御着当日漕船夫を以為召仕と相見申候、当節も其通被仰付候御事ニ御座候ハヽ、宰領之足軽御付被成下、此御役所下代居合、御米漕船頭水夫小頭等召連罷出御物出会之様、先形之通差配可仕候事

一、磯船壱艘　　水夫参人乗ニして

此前之通、郷夫召仕ニして

但し、浦口打瀬（うたせ）標船ニ御座候、御在合無之、御借入ニして、御着・御出帆両日召仕、夜ニ入候ハヽ、篝焚之先形如是御座候

一、伝道壱艘　　麻上下着

此水夫此前之通　　御船頭壱人

御郡夫召仕ニして　　袴着

上乗り壱人

水夫参人

但し、御上使御船々繋方下知人御船頭壱人乗組、此前磯船在之候を為召仕と相見候得共、当時ハ無之、小使船迚も同様ニ付、見苦敷とも伝道壱艘御借入被成、先形之如く此御手

数御立可被成候哉

伝間

一、伝間参艘　上乗り壱人
水夫四人ニして

此前之通、郡夫召仕候ニして

但し、御着之日、水・木用意、御本船毎ニ被進候段、為及挨拶と相見申候、水・木之御旗立申、やらひ外繫置事と相見申候、此節は如何可被仰付候哉

一、伝間壱艘　水夫参人
用心水夫四人

御在合無之、当日借入ニして御入船、当日借入、外ニ御船手両人、袴ハ着ニして

但、御揚陸之節、御渡橋之下敷伝間用ニ御座候、此水夫七人は郡夫ニては難召仕候付、此御役所より之雇ニして、右之場所心得者召仕候事

但、此水夫共自分着物之積ニ罷在候、如何可在御座候哉

小隼

一、小隼代村船壱艘

絹赤幕張之

此前之通、此水夫御郡夫召仕ニして

御船頭壱人
上乗壱人

鉄砲

鳥毛鑓

乗組　御船手参人

水夫四人

一、鉄砲弐挺

一、靱弐甫

一、木綿火縄弐形

一、鳥毛鑓壱本

但、武器飾上使記録ニ相知不申候付、御役人様御下之節御用達乗船御飾如是ニ付、此節も如何可被仰付候哉

〃当浦御着之日、御馳走役参人乗船ニ御座候、元と参艘無之候ては不都合ニ候得共、寛政年壱艘ニ御馳走役参人乗組ニ被仰付候形を以、当節も其通被仰付候と見、御馳走役参人乗り組、御乗船え之手数相立候、前後此船ヨリ御用立、壱人御着船御祝辞為伺御機嫌御船々え相勤候手数在之と相見申候、此節も此前之通被仰付、如何可在御座候哉

〃此船上使田舎廻り御上府掛、仁位御渡り之節、小隼参艘之内ニ被召仕候、寛政年其通被仰付、都合能く廻し船為相成と相見申候、風順之凌も在之、危キ繰替ニ御座候得共、当節も先ツ其手当ニ仕置候、仁位御渉り御用参艘之内、召仕候ニして

一、伝間三艘　　御米漕居合無之節ハ、天道船御借入御済可被成候

但し、前ニ在之候小隼代村船え御馳走役参人被乗組候て、此伝間より壱人充乗り下り上

使御乗船え之手数相済候義、則此前之形と相見申候、当節如何可被仰付候哉

一、隼船壱艘　御船手参人

此前之通此夫御郡夫召仕ニして　水夫五人

内弐人　御米漕

定乗船添

残参人　雇水夫

但し、当浦御飾船居合、御米漕船御借船之義申上、御聞届ニ相成居候得共、船廻りニ依相届兼候儀御座候節ハ、村船又ハ荷形船御借入之義、其図ニ至取計可申候

但、平日木綿幕張、桐油葺ニして、御出入之当日絹赤幕張ニして、尤荷形船絹幕相用候儀、他邦稀成事ニ候得は、始終木綿ニて御済如何可在御座候哉

一、隼船壱艘　船頭ニして

上乗壱人

拾八丁立、新規出来候ハヽ　御船手参人

被召仕ニして　郷水夫四人

但、佐須奈浦御飾船ニ御座候、当浦御下着ニ相成候ハヽ、直ニ上乗御船手陸立申付幕看板類差下、御着関(せき)前手配相立候様取計ニして、浦口御見分被成候節、此御備船より御乗出し被成候節、御船頭被召仕候ニは及申間敷哉、記録ニは先形為被召仕処相見不申候、

鉄砲

張弓

日吉丸

武器飾

此節も是迄之通可被仰付候哉

一、鉄砲弐挺　皮袋入ニして

一、木綿火縄弐形

一、張弓弐挺

一、靭甫弐甫

一、十文字鑓壱本

〃佐須奈浦御飾小隼、武器飾ニて御座候、御上使御乗船ニ候得は、日吉丸壱州迄被召仕候節之通ニては、如何可在御座

村船を以御備ニして

一、隼船参艘　御船頭壱人

此水夫此節之通、御郡夫を以　上乗壱人

召仕ニして　御船手五人

水夫七人

〃武器飾先規相見不申、仁位御渡之間之事故、武器御飾ニ及申間敷候哉、如何可被仰付候哉、尤彼方様武器御届候得は、小船之事故あばき兼可申哉奉存、御考合之上何とか被仰付度奉存候

〃仁位御渡御乗船乗組人数先形如是御座候、然処御下向御迎ニ御船手被差越候節は、其間は、

御船手御雇御入被成候程之人繰候得は、御巡検使ニ付、御船手召仕候分ハ御雇入無之候てハ不相済候間、先形仁位御渡右之人数ニ候得共、御船手五人之内弐人ニ被成、其余ハ是迄之人数被仰付如何可在御座候哉

仁位浜

一、頭漕伝道参艘　　壱艘拾参人乗ニして

此水夫此前之通御郡夫召仕ニして

〃仁位浜ヨリ樽之浜御渡頭漕御在合無之御借船を以被差廻ニして、此外御借船一体は、御郡用意ニ被仰付、寛政年ニハ彼方様御家中衆乗船ニ各中様御乗船一様ニ在之候付、御磯船は差廻、幕等之御備も在之、差当別て用意之手入無之候付、其通取計様ニと在之、此節ハ御磯船御在合無之候付、御在合古小使船一艘差廻し、幕類を以御取償被成度奉存候

壱州迄

寛政年

一、壱州迄御付渡漕船参拾艘　　五人乗充ニして

但、此舸子を以御荷物浜下ケ被召仕候ニして

〈朱書き〉「此御役所付紙　此夫賃銀・飯米御迎之通奉存候事」

同六艘　　小使船御手伝道ニて、本漕船

乗組壱日壱人白米九合充、雇賃銀四拾五匁充と相見申候

同九艘　　町奉行所ヨリ雇入如是

同六艘　壱州伝道御借入
船人共弐貫文宛
同九艘　組方戻りは壱人九銭拾参匁、飯米壱升充ニして被仰付□□

〈頭注〉「御付紙　御荷物浜下ケ且御船へ積入方、別紙を以相達候、壱州迄漕船雇入方之義は、猶先規遂吟味、夫々可被取計候、小使船御在合無之、再応付札を以被申出候通、都合弐艘新規造立小使船参艘、今参艘右代ニ可相成相応之船致手当、先規之通本ト漕六艘不都束ニも無之様手当可被致候、且又、豆酘・佐須両郷之船を以、壱州渡之漕船ニ召仕候義ハ、郷方差支候と相聞候ニ付、外ニ手当可被致候」

右之通寛政年御済被成候処、当節ハ本漕ニ可被召仕小使船御有合無之候得は、無是非も伝道船御借入御済被成候外無之哉ニ奉存候、如何可被仰付候哉、組方戻り船壱州伝道ニ至、慥之御手当ニ不相成事ニ奉存へは、此御手当如何可被成候哉、御国海入船且豆酘郷・佐須郷等之船を以御備被成如何可在御座候候哉、御差図被仰付置被下度奉希候

一、隼船弐艘
日吉丸　長盛丸
〃壱州迄之御見送船御座候、乗組人数御迎立之通ニして
一、頭漕伝道弐艘
日吉丸
御見送船

伝道

但、日吉丸・長盛丸頭漕御座候乗組人数ハ、御迎立之通ニして、船ハ此節御借入ニ相成居候拾艘之内より召仕候ニして

一、伝道九艘

小使船壱艘在之候を加へ、拾艘ニして

内弐艘　壱州迄之御迎立頭漕召仕候ニして

同参艘　御着当日御馳走役三人通行船ニして

同参艘　御着当日水木船之手当ニして、此内より壱艘御着之日繫方下知、御船頭以下乗船ニして

同弐艘　御入船夜ニ入候節、野良崎・虎崎左右浦口火立船ニして

右伝道拾艘御入船召仕候配り、且御入船後平日召仕候配り、左之通ニして

〃参艘　御上使乗船久田浦口御廻し被成、船中番船御付被成候手当ニして

〃参艘　仁位御渡り頭漕ニ手当ニして

〃壱艘　仁位御渡り之節、各中様御乗り船ニ小使船御在合召仕候ニして

〃参艘　府内・田舎不時御用等之節、召仕候手当ニして

此内より弐艘ハ、前ニ申上候御見送之節被召仕候、小隼弐艘之頭漕召仕可申候御先形六艘と相見候得共、此前参艘ニ被仰付候形を以如是

右九艘之伝道、程比相当之船急ニ当所ニて御借入相届申間鋪候付、広島海船餘州之内より御雇

広島海船

付被置、御用意之間は、似合之漁事御免被成、御入用之期ニ至御召仕被成候処を以申諭候ハヽ、雇賃之処も夫たけ便利之道可在之、外ニ相応之船も御座候ハヽ、追々御伺可申上候

右之通、口々奉伺之候間、可然御差図被下置候様奉希候、以上

十月

漕船

漕船三拾艘　水夫看板着

又左衛門様御乗船拾艘　角取紙紺引両付旗

勘三郎様同断　拾艘　角取紙柿色引両付旗

勘七郎様同断　拾艘　角取紙浅黄引両付旗

内六艘頭漕　八丁立

御一方様え弐艘ツヽ

同弐拾四艘　五丁立

御一方様え八艘ツヽ

水夫

〆水夫百六拾八人

内百五拾人　町ヨリ差出分

内拾八人　御船奉行所ニて雇入分

右頭漕六艘ハヽ、御船奉行所ヨリ差出候先規ニ付、夫々可被取計候、尤乗組も御撰不被成して難

壱州御着
貝を吹

叶事ゆへ、三拾人之賃銀を町ヨリ御船奉行所へ請取、六艘之乗組四拾八人は、御船奉行差配之事

一、右三拾艘之漕船揃方町奉行・御船奉行申談、夫々差配之事

一、右漕船相揃候上は、与頭以下掛之役々立会、漕出方見分之事

漕船壱艘毎ニ下知人御徒士より壱人宛乗組候事

一、上使壱州御着之日積相知候上ハ、水夫乗組居候事

一、上使御乗船と相見、貝を吹候ハヽ、直ニ漕出、凪風ニ候ハヽ、五里七里も漕出可申候事

一、御着船之上ハ右漕船水夫を以御荷物船揚致し候手配、左之通

頭漕六艘　陸え揚候三人　旅人ハ不相成

壱艘より水夫三人充陸え揚　人馬方え相渡候事

漕船之内拾弐艘　旅人乗組居候共不苦

右拾八艘ニて、御本船より御荷物請取波戸迄運送可相勤事、尤合印之旗立居候御方々様え六艘宛罷出候様手配之事、此差配漕船下知ヨリ可相勤事

漕船之内拾弐艘　旅人乗組不相成事

此乗組之水夫六拾人ハ陸え揚、人馬方へ可相渡候事申談、夫々差配之事

右陸揚候水夫、都合拾八人は人馬方え請込、御旅宿え御荷物運送、且御行列之内、人夫ニ可召仕事

一、雨天ニ相成り、御荷物船揚不相成候ハヽ、翌早朝罷出、右之手数ニ可相心得事
一、府内御逗留中出火之節ハ、夫・水夫不残人馬方え罷出、下知を可請事
一、御出船之節、漕船参拾艘壱州迄、湯廻渡之事

御荷物御船

漕船下は、御徒士より六人被差越候付、頭漕乗組候事
一、御荷物御船積之運送、御着船之通水夫召仕、御荷物御旅宿ヨリ波戸迄之運送人馬方差配、波戸ヨリ御本船迄之運送、漕船下知ヨリ差配可致事、尤漕船ニも合印之旗立置候事故、御着船之節之通手配相定置、不間違様入念可申事

御出帆

御出船之節ハ漕船壱州迄被差越候事故、御着船之節と違、水夫之内、旅人勝ニ雇入候儀も可有之、御荷物運送計之事故、陸ニて人夫之内ニ旅人入受候とも不苦候事
一、御出帆之当朝御上船被成候ハヽ、漕船水夫之内より御行列御入之人夫ニは、可難召仕候付、外ニ郷夫を以手当之事

右之通得其意、相願候筋々夫ニ可被取計候、以上

十二月二日　　幾度八郎左衛門
　　田嶋左近右衛門

仁位格兵衛殿
吉村儀右衛門殿
藤正左衛門殿

高崎翼殿
箕原九八郎殿

御巡検使ニ付、其役所手配方別帳之通被申出、付札を以相達候間、可被得其意候、以上

十二月二日　　幾度八郎左衛門
　　田嶋左近右衛門

箕原九八郎殿
吉村儀右衛門殿
藤正左衛門殿　　預之筋々可被得其意候
御勘定奉行所
高崎翼殿
御郡奉行所

曲り海人

御巡検使御出入船之節、漕船夫左之通取極メ、曲り海人御請申上候間、左様御心得、猶又曲り肝入其御役所え御呼出し心得方之儀等、夫々御達被成度存候、町雇ニ相成候分も同様之儀ニ付、其御役所ヨリ御通達在之度段申越ス

四月九日

御入船

御出帆

御入船之節

一、頭漕六艘　八人乗ニして

乗組人数四拾八人

内六人御船手より

残四拾弐人

内参拾人之賃銀町会所より取立之事

但海人之者、飯米壱日八合ニして相極候事

内参艘　小使船被召仕之積り

同参艘　弐参拾石之船御借入ニして

一、枝漕船弐拾四艘

此分ハ町ヨリ出候儀ニ付、猶又町奉行所御取極被置候事

御出帆之節

一、本漕船六艘

乗組人数四拾八人

内六人　御船手

残四拾弐人　内拾人ハ海人ヨリ差出候候様申付置ク、亀屋且海人之方打交ニして、手当方之義ハ今一応亀屋方え及往復候上、可申進事

一、枝漕船弐拾四艘

内拾弐艘　六人乗ニして

亀屋卯右衛門ヨリ鯨組之船、人共ニ雇入ニして

同拾弐艘

海人ヨリ差出、船壱艘ニ付九銭六匁、人壱人ニて同拾五匁、渡切ニして申組候事

一、御迎小隼頭漕弐艘　五人乗ニして

但往還之日、壱人九銭弐匁宛、滞留中は同壱匁五分宛ニして、飯米白米九合宛、追通し相渡候ニして取極置候事、尤船ハ追通し九銭壱匁宛ニして

以上

一、百石積船弐艘　因州船頭

大山村より　佐一郎

島原船頭

佐賀村より　熊五郎

右之通入札ニて、壱艘銀銀参百七拾五匁ニて借入候事

〃端船参艘　壱艘参人乗ニして

壱日壱人九銭弐匁飯米壱升、船壱艘壱日九銭弐匁

因州

島原

右船御改所え備之、御用船伺ニ依御船奉行所及談候様被仰付置、先規町ヨリ雇ニして賃銀・飯米御船御船奉行所払ニして相渡有之候間、此節右之通ニして相雇付候様、町奉行所・御船奉行所え申遣

〃人夫六拾人

右御入船之節、漕船夫之内、右之通御荷物船上ケ、且御行列夫ニ当人馬方渡之義及談候事

〃上使御着船之節、本漕ハ素り枝漕共ニ夜ニ入候得は、挑灯壱張宛貸渡候義ニ付、兼て大坂注文取計置、出羽形挑灯四拾張取寄、御船奉行所え貸渡候事、但、引両ニ船之字を書載いたし候事

雪隠船

賄〃仁位ヨリ樽之浜御渡之節、御雪隠船参艘之切組御作事方用意、御郡奉行所え相渡

〃御巡見使御行列ニ付、人夫而已紙合羽着、其余は箕ニて被相済候段被仰付

作　御用人衆駕籠舁夫着用之箕四拾弐、御作事方ニて用意、其余之分ハ郷夫銘々用意罷登

賄〃　羽織参ツ　　御郡奉行所足軽用

〃木綿股引参ツ

但、寛政年ハ木綿十之字形羽折紺股引相渡候事

右、此方ニて用意之積り

一、白米七拾俵　豊崎・佐護両郷寄夫飯米
一、同六拾五俵　豊村え別段御備ニして
　内四拾九俵　府内ヨリ差下
右御関所え御米漕積来之内ヨリ直ニ船揚手当
一、同参拾俵　大山村寄夫飯米
一、同百四拾俵　佐賀・琴・仁位四ヶ村え如是、壱村え参拾五俵宛
一、同拾五俵　佐賀村え別段御備
右、府内より四拾九俵豊村え差下候外ハ、当節いつれも納所之粗米にて相備候事

賄

一、茶碗参百拾う
一、批杓(ママ)百弐拾四本
　右大小山水桶ニ相添候分　兼て御郡奉行所渡
一、銀八百匁　府内寄夫飯米賃銀ニ当貸ス
一、白米弐拾六俵

魚之干物

〃田舎御廻村之節、御泊り村々え売物方用野菜、魚之干物類、塩魚等用意方之義、兼て御郡奉行所ヨリ触下ニ相成候様及釣合置候事
〃御泊り村々え寄夫飯米、先規之通御備被置候処、段々雨繁之時節ニも差臨、若御滞駅ニ相成候節之為、白米参拾俵別段御郡奉行所談之上差下候事

薪

入札

一、燈草千四百束

一、薪百五疋

右御巡検使ニ付、近村ヨリ入札ニして、久田村え御備之儀御奉行所え以手紙申遣、承知之段申来

右之入札、御郡奉行所ニて取計候処、久田村白剥燈草壱束ニ付干銭拾五文、薪壱疋ニ付銀七匁ニて相請持候付、御郡奉行所ヨリ申来

右久田村御備之薪六拾三疋余売余り之分、同村下知役ヨリ願ニ依、壱疋銀六匁参分宛ニして、久田村中え御売渡被下、燈草ハ千四百束ニて不足ニ在之、追々伐出し、御用相達候と見候付、重ては見合可伐出置事

一、薪五拾疋　　此薪付込賃銀ハ先ニ記置候事

但し、府内御宿用、真下タ・西平両所御立山ヨリ伐出し方御免被仰付、賃銀之義ハ、寛政年之通壱疋ニ付参匁ニ候得共、時代も違候付、難儀可致段、御郡奉行所ヨリ役談ニ及候付、銀参匁四五分之まを以相請持候様、御郡奉行所え以手紙申遣置

但、伐出委細之儀ハ被仰出之　　十一月八日

〃薪壱疋銀参匁五分ニして、佐須郷夫ニ申付、代銀御賄方払ニして、四月廿六日佐須郷草使え相渡

郡奉行所

御巡検使
御人柄

巡検使御用御郡奉行所御伺書写

覚

一、御巡検使御人柄相極、為御知被下候節、御用人衆之名前共ニ為御知可被下候、馬之口取り持夫、当日は御用人衆之名付居候は、前広ニ名替り申付候先格ニて御座候、尤御上下之人数相知候ハヽ、御書付を以被仰出可被下候

〈頭注〉「御付紙　九州筋御巡検之御人柄左之通申来、御用人等之名前未相知、先形も在之事故、追て可相達候、御使番　曽我又左衛門様、大納言様御小姓組　蜷川越中守様組　大久保勘三郎様、同御書院番　本田対馬守組　近藤勘七郎様」

田舎御巡検

〈頭注〉「御付紙　以下五ヶ条追て可相達候」

一、田舎御巡検之節御宿々賄之儀、宝暦年上使之節ハ、隣国御問合を以木賃とは被仰出候得共、実ハ旅籠同然之御手当被仰付候と相見、寛政年ニ右之例を以御手当方御伺申上、料理仕立方等御聞合在之、相極次第被仰出被下候様、奉伺有之候処、同年御巡検使様ヨリ御挨拶之御旨も為在之趣、書留ニ相見申候、此節ハ如何可被仰付哉、御差図被仰出可被下候

諸色直段

一、御巡検使ニ付、諸色直段御極被成候得は、帳面ニ仕立御勘定所ヨリ被相渡候先規ニて御座候、此段被仰渡置可被下候

金銭相場

一、右同断ニ付、金銭相場御極被成候ハヽ、御書付御渡可被下候、田舎者下々迄金銭之相場覚居、上使御家来衆被相尋候節、相答候為ニ申渡置候先規ニ御座候

人馬

付廻り

一、右同断、田舎御往還ニ付、駄賃・軽尻人足賃・木賃等被成御極、先覚之通被仰出可被下候

一、御巡検使御家老中衆旅籠ニ被相望候節之為、田舎え被差下候役々之組合、田舎ニて繰替セ之次第、以御書付被仰渡候と記録ニ相見申候、此度も先規之通被仰付可被下候

一、御巡検使府内御発駕用之人馬、延享年と宝暦年とハ余程之多少為在之義と相見、寛政年之度ハ右両年之人馬之高書載仕、両年之内、大抵何れニ相心得可申哉之段御伺申上候処、宝暦年之形ニ相心得候様被仰達候と留書ニ相見申候付、寛政年之人馬之数左ニ申上候間、何れとも御差図被仰達可被下候

合夫四百五拾人　宝暦年同数ニ候事

内参百九拾四人　上使人馬役え相渡候分

同五拾六人　此方御家中用

合馬弐百疋

内七拾壱疋　上使人馬役え相渡候分

同百拾九疋　此方御家中用

〈頭注〉「御付紙　人馬之数只今ヨリ難相極候得共、先□□□□形ニ可被相心得候、尚其節ニ至相達品も在之候」

〈頭注〉「御付紙　以下二ヶ条追て可相達候」

一、田舎御巡検之節、此方御家中御付廻り上下之人数并人馬割・宿組ともに御書付被成御渡可

被下候

一、右同断之節、郷村え被差下候町人迄之役々夫々ニ被仰渡相済候ハヽ、役付之御書付御渡之被成可被下候

御駕籠舁

〈頭注〉「同断　何れも寛政年之振ニ可被相心得候、人数増減并御三方等之義、□□□□」

一、上使御駕籠舁ニ被差加候郡夫并中馬口取、府内御宿人足、其外辻堅風廻り等不足之差足郷足軽等之義、先規之通被仰付ニて可在御座候、尤人数被仰出可被下候

但、登方之義、日積等之義先規之通可被仰付候哉、左候ハヽ、御役方えも其段被仰渡可被下候

御用中馬

〈頭注〉「御付紙　中馬之義、於府内借調之手当ニ候得共、不足之義も候ハヽ、田舎ヨリ牽登候様可相心得候、尤員数、牽登日積等ニ至、其節可相達候」

一、御巡検使御用中馬之義、寛政年ニも府内ニて御借調被成候と留帳ニ相見申候、此度ハ如何可被仰付候哉、若田舎より御借被成候御事候ハヽ、員数并牽登候日積等被仰出可被下候

〈頭注〉「御付紙　先規之通たるへく候、切組之義用意方役方へ相達候」

雪隠船

一、上使仁位ヨリ樽之浜え御渡之節、御雪隠船参艘御用意在之候と寛政年留書ニ相見申候、此節も参艘用意被仰付度奉存候、尤参艘之切組用意之義、御役方え被仰渡可被下候

〈頭注〉「御付紙　小隼代、村船壱艘御借上之義ハ先般相達置候通ニ候、外ニ御乗船用枝船三艘御借用三艘手当方先規之通可被相心得候、船飾諸品差下方諸役所へ可□□□□候」

一、佐須奈浦え御見分之節、御三人様乗船用村船参艘仮屋形拵、外ニ御供船参艘御借上被成候先規ニ御座候処、宝暦年ニは小隼一艘ニ御三人様御乗組被成候と留書ニ相見、寛政年ニハ、御三方様御乗船并御供船ともに村船六艘御借上之積相心得候様被仰達候趣留帳ニ相見申候、此度ハ如何可被仰付候哉、弥寛政年之形ニ被仰付候御事ニ御座候ハヽ、御召用之村船ニて、畳六十畳差釣三張、水夫着用対之物、紺木綿単物参拾差被下候先規ニ御座候間、御勘定奉行所へ被仰渡置可被下候

佐須奈

〈頭注〉「御付紙　以下二ヶ条可為先般之通候」

一、佐須奈御関所加番、給人中先格之通可被仰付候哉

一、御巡検使鰐浦御関所御見分之節給人三人羽織・袴着ニて、御番所へ相詰候先規ニ御座候、此度も先規之通可申渡候哉

〈頭注〉「御付紙　御下向ニ臨ミ、御目付壱人当時在勤被仰付候積ニ候、加番給人并郷足軽先規之通可被相心得候、尤郷足軽等着用之羽折差下方役方へ可相達候」

一、綱浦在番御目付被成御引、彼村下知役より在番代勤被仰付置候、前々在番御目付被差下置候節、御巡検ニ付勤方之義御書付等被成御渡候御先規共ニては無御座候哉、左候ハヽ、御先例之通、在番勤方ニ付て之御書付此節ハ右代勤之下知役え御渡被下候様奉存、且右御番所加番之給人并郷足軽・人足等、先規之通被仰付候御事ニ御座候ハヽ、足軽・人足着用之羽織等等在番方え被差下置候様、御役方え被仰渡置被下度奉存候

綱浦在番

足軽着用

荷送用

御召船

〈頭注〉「御付紙　吟味之上、追て可相達候」

一、寛政年御巡検之節、役目之給人は、持来之日野絹紬羽織着仕相務候と記録ニ相見申候、此節ハ如何可被仰付候哉、御差図可被下候

〈頭注〉「同断　羽織・股引御出来御渡被下候間、役方可被申談候」

一、此御役所足軽着用之羽織三、夏ニて候得ハ布、冬ニて候得ハ木綿、木綿股引参、先規之通為出来、内納銀より相払候様被仰付置候処、直納ニ相成候ニ付、従上使御渡被下候迄、寛政年記録ニ相見申候、此節も同様被仰付被下度奉存候

〈頭注〉「御付紙　可為書面之通候」

一、荷送用之馬差支候時、上使御家中荷物之外、此方御家中荷物之義は、牛ニ付させ候得と、先年も被仰付候と相見候、右之通被仰付可被下候

〈頭注〉「同断　御一行船々より薪所望売渡用伐出し方、前例之通取計、御船屋内ニ備置、御船番より見かしめ候様、寛政年之通可被相心得候、御船奉行えも可相達候」

一、御巡検使御召船并御付船より薪所望在之候時、売渡用として久田・尾浦・安神・内院・久和五ヶ村入札申付、落札を以薪壱疋之代銀相極、百五拾疋前広為伐出、久田村ニ備置、右御船々ヨリ所望在之時、入札直段之通ニて為売渡候と前々之留書ニ相見候間、此度も先例之通被仰付度奉存候、尤直段之儀ハ追て入札申付候上可申上候、且右之薪久田村え伐出し候得ハ、薪番人ニして久田村之者代ルゝニ相勤、壱日一人ニ銀八分充被成下候先規御座候処、宝暦・

燈草

寛政両度ともに、右薪御船屋之内ニ立、御船番ヨリ見かしめ被仰付候と留書ニ相見申候、此度之義何れとも御差図被仰出可被下候、尤御船江御構内え立候様被仰付候御事ニ御座候ハヽ、其段御船奉行え被仰達可被下候

〈頭注〉「御付紙　燈草用柴、寛政年之通千四百束久田村へ備置候様可被相心得候、伐取方・入札等之儀、追て可被申出候」

一、田舎御巡検使之内、御召船并御付船より所望之節、売渡用之燈草、寛政年ニハ千四百束入札ニして為伐出相備置候と留書ニ相見候、此度も右之員数為伐出、久田村え備置、右船々ヨリ所望在之候時、入札之直段之通売渡し候様被仰付度、尤直段之儀ハ追て入札申付候上申上候と相見申候、何れとも被仰出可被下候

〈頭注〉「同断　吟味之上、追て可相達候」

一、御巡検使御巡検使肴採（菜）用として、佐護郷湊海人七人乗ニして、府内え被召呼、田舎御付廻りとして相勤候先規御座候間、先格之通人数相揃可申候哉、郷方え吟味方申下置候、就夫、寛政年ニは上使御接遇之儀ニ付、新ニ被仰出有之、御菜用縄船壱艘湊海人船曲り海人船弐艘被成御備、佐野屋正左衛門網肴をも被仰付、外ニ御手網船壱艘御備被成候事と相見候処、右之内、湊海人船壱艘・御手船壱艘を被相減候段被仰達候と同年留帳ニ相見申候、此節ハ如何可被仰付候哉

〈頭注〉「御付紙　御城西之御門ヨリ牽入、御城内同後手元国分寺屋敷を唱候場所二ケ所ニて、

馬喰飼

伐草を以喰飼いたし候様可被申付候」

一、郷々より段々牽登候馬喰飼之儀、先規御城之内西之御門より牽入、草を伐、喰飼仕候儀被成御免候と相見申候処、寛政年ニハ御城内草在り之場所無之相聞候付、宗像山え牽上、伐草ニて喰飼仕候様被仰付候と留書ニ相見申候、此節ハ如何可被仰付候哉

但、宗像山ニ牽上候てハ手遠ニ相成申候間、此度ハ□□（空白）喰飼仕候様被仰付、右両所ニて、御城大手之内御殿之後手ニて場所狭く候ハヽ、御城後手ニ元国分寺屋敷と唱、只今何か方之請持と御座候哉、仮成之空地相見申候間、此処御吟味之上、喰飼処ニ御添御手当被仰付候ハヽ、宗像山迄牽上候ニハ及申間鋪様奉存候、何れ共被仰出可被下候

人馬役

〈頭注〉「御付紙　以下二ヶ所馬立場之義、申出之通可被相心得候、尤八幡宮境内え繋候義ハ可為無用候、天道茂・川端通弐ヶ所ニて何分相済候様可被取計候、其余ハ可為先格之通候」

一、右寄馬揃立候場所之儀、一洞ヶ渕と下モ御厩馬場之内ニ為繋候、先規寛政年ニも其通ニ御伺申上、宜ハ先規之通ニと被仰出置候処、其後下御厩馬場之内ニ天道茂、与良郷草使屋前、通川端三所ニ揃置候様ニと被仰出置候様相見申候間、此節も右之三所ニ揃立候様可被仰付候哉

一、御巡検使府内御立之節、人馬役え人馬相渡方之儀、御三方様分を三組ニ引分ケ宴席門之内ニ壱組、黒門之際ニ壱組、下馬之方ニ壱組、一番・二番・三番之板札を建、馬繋之杭を打置

道作り

キ、人馬渡方ハ、御郡方御印判在之木札を、兼て人馬下知役方え相渡置、其札を以混雑不仕様夫々引渡、此方御家中之人馬ハ元ト以酊庵之下ニ召置、是又御郡方より相渡候人馬札を為持遣被相請取候と留書ニ相見申候、此節も先規之通可被仰付候哉、尤元ト以酊庵下之義、寛政年之比迄ハ空地手広為在之と相見申候処、信使以来ハ御家中居屋敷と相成、只今之姿ニて、此方御家中渡之人馬牽揃程之空地無之様相見申候得は、此度ハ右寄馬三ヶ所ニ揃立候内、御厩馬場え繋候分を上使之方え相渡、天道茂と川端繋置候分を其侭召置、御家中渡相済候様被仰付如何可有御座候哉、右両所ニてハ少々手狭ニ可在之候間、繋余り候分を八幡宮境内なから、強いて御差支無御座候ハヽ、鳥居内北手之方え少々ハ召置候様御免被仰付被下候ハヽ、御用便之義と奉存候、何れ共可然被仰出可被下候

〈頭注〉「御付紙　木札之義出来、役方より相渡筈ニ候」

一、右人馬請取渡しを御印判有之木札ニて不致候ては、致混雑候付、享保二年上使之節、其段申上、木札九百枚此御役所ニて為拵相用候と留帳ニ相見申候処、寛政年ハ上より御出来御渡ニ相成候と留帳ニ相見申候、此節も同様被仰付被下度奉存候

〈頭注〉「御付紙　先規之通其方達内罷下候様可被心得候」

一、御巡検使田舎御宿々普請致成就、道作りも出来候節、為見分私共内壱人罷下候先規ニ御座候、此節も御宿并道作出来方承合候上、私共内壱人罷下可申候哉、御差図被仰付可被下候

〈頭注〉「御付紙　揚陸之節、御宿へ久田村行規人罷越、掃除方等可及差図村役人、勤方先例

久田村

之通可被相達置候、御先払等ハ行規人心得可罷在候」

一、御上船以後、久田浦御滞留内御揚被成候儀在之節、久田村へ被差越候行規人、先達て延命寺へ罷越居、掃除所等有之候得は、行規人差図方次第、彼村下知人・肝入百姓召連罷出相勤候先規ニて御座候、尤御揚陸之節御先払ハ行規人方より組之者両人被差出候義と相見申候

〈頭注〉「御付紙　以下二条可為先規之通候」

一、於久田村、諸事為下知、私共内ヨリ上使上三郷御巡検之内、見合、罷下候先規ニて御座候、此度も先規之通可仕候

一、久田村御滞留中、行規人宿三軒久田村え申付候先規ニて御座候、則先規之通申付候様可仕候

〈頭注〉「御付紙　御宿え先規之通、品々役方ヨリ差下候積ニ候」

一、寛政年御巡検之節、久田村延命寺え、左之品々用意被仰付御備被成候と記録ニ相見申候、此節も先規之通用意在之、同様御役方え被仰達置可被下候

一、大手洗参ツ　　一、批杓(柄)大小弐本
一、水据桶壱　　一、手水手洗弐ツ
一、手水桶壱　　一、批杓(ママ)壱本
一、大釜壱　　一、水田子壱荷

〈頭注〉「同断　申出之通久田村下知役長九郎相勤候様可被相達候」

久田村延命寺

一、御巡検使御下向御在留之間、久田・尾浦・安神三ヶ村下知役を内院村下知役兼帯被仰付、御巡検使上三郷より御上府、即日より御出帆迄、久田村え罷越相勤候先規ニ候処、寛政年之比より久田村え下知役御設ニ相成居、長村杢左衛門儀相勤候様被仰付候と記録ニ相見申候得は、此節も居村下知役長九郎え被仰付被下度奉存候

〈頭注〉「御付紙　寛政年之通ニ相心得、諸用意方御船奉行可被申談候」

仁位浜

一、上使仁位浜より樽之浜え御渡之節、上使御乗船用小隼参艘府内ヨリ差廻、其外御家中衆乗船之内、九艘此方御家中乗船之内御用掛并御用達・人馬下知役・御付廻り御郡役、且医師・外科ハ乗合ニて、右之面々乗船五艘、村船ニ仮屋形を竹ニて拵、屋根ハ桐油又ハ大油紙ニて葺候義享保年以前之形と相見え候、延享年以来寛政年迄ハ上使御家来衆乗船と御用掛御乗船計屋根は大油紙ニて葺、其以下ハ苫葺候と記録ニ相見申候、右両例之内、此節ハいつれニ可被仰付候哉、御差図可被成下候、尤御勘定所え之御差図被仰付可被下候

〈頭注〉「御付紙　御発駕之儀難差極義ニ付、御下向時勝本迄被召仕候御用在之人へ申含越、御様子相考申越候上可相達候、尤御着船翌々日之先例多見候付、先ツ先形之通可被相心得候」

府内御発駕

一、上使府内御発駕用人馬寄方之儀、上使船勝本ヨリ御渡海御乗船と見極候上、人馬寄方郷々え飛脚を以申下し、其夜中ニ登り、為揃申義ニ御座候処、御船と見極候刻限ニ依り候ては、郷々え為知之飛脚差立方遅り可申候、郷々え之通達方遅り候ては、夫ニ応し人馬之登方遅延

郷夫

仕筈にて、既ニ延享年上使之節も、遠村之人馬其夜中登り揃不申候付、御着船翌朝之御発駕ニて候得は、人馬甚差支申候義ニ候処、翌朝御立不被遊候付、相欠て之儀ニて間在之由留書ニ御座候、右之通ニ候得は、御着船之様子自然遅り候ものニ仕候時は不及申上、左様無之候共、御船と見極候上ニて郷々え人馬寄方申下候ては、里数隔り候山越之義、其間ニは如何成障り候て歟、登揃方相滞可申も難計、極て翌朝御初駕之御間筈ニ逢可申とは難申上奉存候間、此度之儀御着船之翌朝御発駕之積ニ人馬相揃候様、御手当被成候御事ニ御座候ハヽ、上使勝本え御着船之儀相聞次第、遠村之人馬は兼てより呼登被置候様不被仰付候ては、可難計奉存候、尤宝暦年・寛政年共、上使御着船之日より中ヵ壱日御間有之、府内御発駕被遊候と相見、此度迎も其通ニ相成申儀ニ可在御座候哉、若御着船之翌朝御発駕被遊候時は、右申上候通極て差支可申と奉存候、勿論兼日より人馬御呼登被置候義は第一御費筋と申、其上百姓之労費不軽、難儀仕次第ハ、委細不及申上儀ニ候得共、若又御発駕被遊候時、人馬御間筈ニ合不申様有之候ては、大切千万共奉存候付、此段御伺申上候間、いずれ共御差図被仰出可被下候

〈頭注〉「御付紙　可為先規之通候」

一、寛政年御巡検使御駕籠舁ニ被差加候郷夫、壱日壱人賃銀壱匁五分充、中馬口取り郷夫えは、壱日壱人賃銀壱匁弐分充被成下、於田舎旅籠被成下候得共は、壱匁二分之内四分引之、被成下候、此節も先規之通被成下度奉存候

〈頭注〉「御付紙　寛政年之通可被相心得候」

大船越

一、御巡検使ニ付、与良郷大船越堀切掛橋之義、宝暦年迄は土橋出来候と相見候処、土橋之義ハ懸捨りニ相成、手間費と相見候付、寛政年之節、材木橋ニ為出来度郷役人中ヨリ申達候次第申上候処、則材木橋ニ出来為仕候様被仰付、材木取出し等之人夫は、上ニ御構無之、橋を掛候節計り之人夫飯米可被成下段被仰付候と留書ニ相見申候、当節も右之通被仰付被下度奉存候

波戸

〈頭注〉「御付紙　追て伺出候、品ニ依波戸出来相済候様相達置候間、夫々可被取計候」

一、仁位之浜船波戸之儀、先例弐ツ出来候と留書ニ相見申候、御船着之処潮入之深サ、長尺之儀、御船奉行所え問合候上、夫々手当仕候付、波小拵ニ被召仕相当人夫之義、先例之通郷夫被召仕、波郷役人之内より立会差配仕候様被仰付候段、留帳ニ相見申候、此節ハ御船付之場所材木を以切組出来、御通行相成候様被仰付度之趣申上、其通被仰付置候付、夫々郷方え相達候様可仕候

右之趣御伺為可申上如是御座候、以上

郡奉行所

〃御郡奉行所ヨリ差上候手紙被成御渡候付、付紙を以申上、左之通

以手紙啓上仕候、御巡検使御通り筋道作りニ付、御駕籠組之内壱人被差下候、就夫、廻村中、壱日銀弐匁宛旅籠銀其筋ヨリ御渡被下候、寛政年御先形ニ相見申候、御手筋ハ素り御駕籠之者えも御手筋を以御達被下度奉存候、此段為可申上如是御座候、以上

道作り

駄賃

十一月廿一日　　御郡御支配　御郡奉行中

此役所掛紙

御郡奉行所ヨリ之手紙被成御渡披見仕候、御駕籠組之者壱人被差下候節、廻村中壱日銀弐匁ツヽ、旅籠銀御渡被下、御合力銀一ヶ月四匁御渡被下候と相見申候、此節被差下候ハヽ、右之通御渡被下度奉存候、以上

酉十一月　　御勘定奉行所

以手紙令啓上候、上使御本陣三軒付込之薪五拾疋之駄賃之儀ニ付、及御役談候、品ニ依、以酊庵且御厩え付込候駄賃ニ準じ、壱疋銀壱匁弐分充ニして、御渡可被下候哉、猶相当之賃銀差極申進候様、御紙面を以被仰聞置候間、馬方共え申聞候処、被仰下候通ニして御渡被下候様申出候間、今日ニも相渡候様御手当筋え御差図被下度存候、将亦上使御下着間近ニ相成候付、先例之通壱番両人雇入、賃銀之儀ニ付、寛政年之記録面之写をも掛御目、委細御役談ニ及置候通御座候間、雇賃紙末之通相成候間、是又夫々御渡被下度存候、此段為可申述如是御座候、以上

五月廿日　　御勘定奉行所　御郡奉行所

一、銀百六拾六匁五分

但、四月廿六日ヨリ五月三日迄、〆日数参拾七日

壱日弐人充、壱人銀弐匁弐分五厘ツヽニして
但、寛政年ニハ、壱日銀弐匁充ニして雇入ニ相成候得共、右ニては雇入難相成候付、
御作事方並日雇賃銀ニ被準被下候様、及御役談置候付、如是
一、銀六拾匁　　薪五拾疋
但、薪壱疋ニ付銀壱匁弐分宛、以酊庵御厩え付込候賃銀ニ準如是
御巡検使御廻村中奉添、御聞置候通、大山村ニて拾三人、佐賀村ニて壱人、合拾四人縄下ニ取
計申付、右拾四筋之縄代御定式之通、相渡候様御差図候事
五月廿九日
御巡検使御宿々御普請ニ付、御加勢帳、御郡奉行所添書共
仁位郷
覚
〃仁位村壱番御本陣
一、水遣所竹床三間ニ壱間張替　　家主ヨリ
一、竈所塗替　　右同断
一、手水鉢置所縁竹計張替　　右同断
右仁位新九郎宅

薪
仁位村
塗替

〃仁位村壱番御本陣下タ宿
一、水遣所竹床弐間半ニ五尺張替　家主ヨリ
一、竈所塗替　右同断
一、家内掃除雑巾遣仕揚　右同断
右社人宮門宅
仁位村壱番御本陣下タ宿
一、納戸四畳敷ニて在来壱間　板壁同板無之　新ニ打候分　家主ヨリ
一、家内掃除雑巾遣　右同断
一、竈所塗替　右同断
右百姓平左衛門宅
〃仁位村弐番御本陣
一、勝手廻り台所鉋付板全く仕替　家主ヨリ
一、表入口障子無之　連子障子壱枚板出来　右同断
一、台所北手ニ新ニ庇六畳敷　北手之中敷無之新規出来　右同断
一、玄関式台新規出来　右同断
一、竈所塗替え　右同断
一、水遣所竹床三間ニ壱間下地繕　竹張替　右同断

右小田伴九郎宅

〃仁位村弐番御本陣下夕宿

一、水遣所三間ニ五尺張替　家主ヨリ

一、竈下塗替　右同断

右仁位孫七宅

〃仁位村弐番御本陣下夕宿

一、本座拾壱畳敷ニて板敷縁柱仕足　釘ニして繕　家主ヨリ

一、水遣所竹床参間ニ四尺張替　右同断

一、下モ雪隠壱ヶ所堀建　縄結苫茅ニして出来　右同断

一、竈所塗替　右同断

右仁位甚左衛門宅

〃仁位村三番御本陣三番御本陣　＜朱書き＞「此長屋可然、是儀は御止ニ相成、平松登蔵ニ相成、二番御本陣と御繰替ニ相成ル」

一、本座六畳敷ニて　床見床左右張替　弐堡共ニ張替候付、下夕張四歩壱共ニ出来

一、竈所塗替　家主ヨリ

一、勝手廻り水遣所竹床三間ニ壱間張替　右同断

右社人長岡不然宅

〃仁位村参番御本陣下タ宿
一、水遣所竹床弐間半ニ壱間　張替　　家主ヨリ
一、竈所塗替　　右同断
一、家内掃除雑巾遣
右百姓直吉宅
〃仁位村三番御本陣下タ宿
一、水遣所竹床五尺ニ弐間半　張替
一、家内掃除雑巾遣　　家主ヨリ
右足軽宇吉宅

御入料

右之通、御普請場御入料之内、家主之銘々出精可仕段、口々如是御座候、以上
酉八月　　梅野初平
御郡奉行所

仁位村

〃仁位郷仁位村
上使御宿々御普請之儀、自力相届候丈ハ御加勢申上候様追々相達置申候処、別帳之通語加勢方申出候付、可然御聞得被成下、猶又御作事方積前相減候儀等は在之間鋪歟、其御筋え被仰達可被下候、就夫小田伴九郎宅は、余程之取繕ニ御座候処、杉所持不仕候付、御山之内より杉木節

物三尺廻り壱本被成下候様、別段願出居申候間、願之通被成下、山役立会伐取候様被仰付下度奉存候、此段為可申上如是御座候、以上

九月六日　　御郡奉行所

杉村右馬助様

鶏知村

御物入

鶏知村・大山御普請所御加勢申上候願書且御郡奉行所添書共

態与啓上仕候、御巡検使ニ付、自郷鶏知・大山両村え御昼休・御止宿ニ相成候付、御宿々御普請被仰付御積り高、大造之事と相聞、当時御不繰之御中、自郷而已之儀ニも無之、郷々ニては大造之御物入、就夫先日御含被成下候御様子も在之、御宿をも被仰下、銘々何分此節出精一廉之御為筋をも不仕候て難叶儀ニ御座候処、当今田舎之体勢いつれも零落重畳之時節ニて、是と申御加勢筋難申上残心千万之儀ニ御座候処、給人中之分ハ紙末之通申出候、宜御聞得可被成下候、其外百姓共之義も両村共ニ極困之村方ニて、零落之者共ニて全御断申上候、是又可然御聞通被成下候様奉願候、以上

八月九日　　神宮吉左衛門

御郡奉行所

御本陣

一、鶏知村壱番御本陣　　神宮吉左衛門

右は、現銭御加勢難相届、依之本家其外共ニ全く自分より普請仕、御用立可申候、尤無人ニ付、人夫六拾人御渡被成下候ハヽ、其余之分悉皆自分ヨリ夫々仕候様可相心得候、此段宜御聞通可被成下候

一、同壱番御下宿　　神宮貞之丞

右は、現銭御合力難相届候付、紙末之品々自分ヨリ出来御加勢可申上候、宜御聞通可被成下候

一、松五部板　廿七枚　　一、同六部板　五枚
一、同貫　七枚　　一、松丸太　六本
一、壁縁　五本　　一、立山木　三本
一、八部板　壱枚　　一、木舞　七本
〆八品

一、弐番御本陣　　吉野傳右衛門

郷大工

右は、現銭御合力難相届、依之紙末之品々上より御手当被成下候ハヽ、悉皆自分より普請仕御用立可申候、此段宜御聞得可被成下候

一、郷大工　百拾人
一、手伝夫　四拾参人
一、夫　四拾人
一、大小釘類
一、杉丸太　弐拾本

右は、大船越領わけかさへ植分杉之内ヨリ弐尺廻りニて被成下候様奉願候、右之分御渡し被下候ハヽ、其余之分は自分より仕可申候

御下宿

一、弐番御下宿　神宮直左衛門

右は、困窮之身分ニて一銭之御加勢も不得申上候、此段宜御聞通可被成下候

困窮

一、参番御本陣　吉野小左衛門

右は、困窮之身分ニて大造之御加勢不得申上、銀五拾匁丈御合力可申上候、宜御聞通可被成下候

大山村

一、大山村壱番御本陣　　小田熊之介

右は、此節大造之御普請被仰付候付、御為筋出精仕可申候得共、難渋之身分、右銀之内銀百六拾匁御合力可申上候、宜御聞通可被成下候

〈頭注　朱書き〉「丁酉十二月廿五日御合力申上候銀、大山村御本陣三軒分四百拾匁、諸方上納帳ニ受込」

弐番御本陣

一、弐番御本陣　　小田金左衛門

右は、大造之御普請被仰付候付、御合力筋出精可仕候処、困窮之私難手届、本家葺替且銀高之内、銀百匁御加勢可申上候、宜御聞通可被成下候

一、参番御本陣　　小田忠七

右は、大造之御普請被仰付候付、御為筋出精仕度奉存候得共、困窮之身分難手届、乍数少、銀高之内百五拾匁丈御加勢可申上候、宜御聞通可被成下候

右之通、御加勢申上段申出候、宜御聞通可被成下候様奉願候、以上

八月九日　　与良郷

右ニ付御郡奉行所添書

今般上使御下向ニ付、田舎御宿々御普請所見分被仰付、於其筋御入料積取調ニ相成申候処、此度は別て御間遠之御下向ニ付、御宿御借上相成候家々何れも及大破居候付、御普請之御入料大銀之御入目ニ相見、御勝手向ニ御座候得は、家主之銘々ニ自力相届候丈之出精方、於郷々諭達仕、猶郷村役々えも相含置候品も在之候付、先日、上六郷之奉役中上府之節、御宿々御普請積帳之写相渡、帰村之上、家主之銘々出精方之様子申出ニ相成候様相達置申候処、此節与良郷ニて御宿御借上之銘々より自力出精方之儀、別帳之通申出候付差上之、掛御目申候、同郷之儀別て之貧郷ニて、銀力之出精相届得不申段左も可在之義ニ奉存候付、其段は宜鋪御聞通被成下、別帳申出之次第御吟味之上、何れとも御差図被仰出被下度奉存候、此段為可申上如是御座候、以上

貧郷

猶以申上候外、五郷ヨリハ未申登候間、申出次第差上可申候間、左様御聞届置可被成下候、以上

八月十八日　　御郡奉行所

杉村右馬助様

深山村

深山村給人佐護四郎左衛門居宅御借上願、且右ニ付御郡奉行所添書弐通共ニ

口上覚

私居宅古損、殊ニ御上使御下御沙汰在之、古屋ニては御宿相勤候体無御座候間、改建仕候処、

当春御宿御見分之時分は解除中と申御見分も無之候付、家・屋敷絵図為差登申候間、宜様御差図可被成下候、一旦御宿御極被成候付、恐多奉願事ニ御座候得共、前々よりも御宿申請候様子ニ御座候間、此節御宿被仰付被成下候ハヽ、悉皆自力を以内造・外廻り等上之御手入ニ不相成、御宿申請度奉存候間、右之段奉願候間、何卒宜様御取成奉願候、以上

八月廿一日　　佐護四郎左衛門

佐護六郎兵衛殿

右之通願出申候間、取次之、差上申候、以前より御宿ニ相成来候間、当節願出之通被仰付被成下候様奉頼候

佐護六郎兵衛

御郡奉行所

深山村給人

佐護郷深山村給人佐護四郎左衛門住宅之儀、御巡検使之節は御宿ニ相成来候と相聞申候処、先般御宿見分として御役々被差下候時分は、居宅古損改建之筈ニて取除ケ申ニ付、外給人居宅ニて見分在之、御普請見積等相済居申候処、其後ニ至建家仕、此上内造ハ素り御宿ニ付外廻り取設ニ至、悉皆自力を以為致成就、御宿相勤度段、別紙之通願出候間、書面差上之、掛御目申候、右御宿是迄代々相勤来、当節相欠ケ候段、存入も在之と相見、且は当時之御時体柄ニ付、別て御物出相減し方郷々え相達し候品も有之、旁右之通申出候と相見え、尤之儀と奉存候間、願之

御宿

通被仰付被下度評議仕候、此段為申上如是御座候、以上

猶以申上候、本文申上候通被仰出候御事御座候ハヽ、一番・二番御宿ニ見分相済居候同村給人佐護長右衛門・佐護六郎兵衛宅之義、二番・参番(ママ)御宿ニ繰下ケ被仰付候得は、新建被申下タ宿ハ、是迄参番之下宿繰上ニ仕候得は、都合宜御座候間、其段御手筋え御達被下度奉存候、且是迄三番之御宿ニ相極居候佐護源兵衛宅之義は、御宿被成御免候段、相達候様可仕候、以上

八月廿九日　　御郡奉行所

杉村右馬助様

佐護郷深山村、上使御旅宿・下宿共九軒御普請其筋ヨリ之積前大造之儀ニ相見申候処、当節ハ別て御時体も違、郷々御普請御取設方不軽、御心遣之御場ニ付、御宿主ハ素り郷方ニも一際出精御合力申上方之義、委曲相達申候処、彼郷奉役儀御時体がら厚く勘弁仕、郷方且家主之面々えも示談行届候様相見、左之次第為申登候間、杉木被成下方之儀は、申出之通家主之面々え被成下、役々立会ニて伐取御免被仰付被下度奉存候

一、杉木弐本　　但三尺五寸廻り

右は御立山内ニて当夏風折之分

一、同拾五本　　但弐尺廻り以下

右御立山内より

大工賃銀

豊崎郷

〆拾七本

右之通御宿主中え被成下候様、奉役ヨリ願出申候

一、右之外、木材之儀は自分所持之立山、且端山ヨリ取出し方等之義ハ、郷方ヨリ御加勢可仕候段、申出候

一、大工賃銀、飯米之義ハ家主之銘々ヨリ出精可仕段申出候

右之外諸品之儀は、上ヨリ御手当被下置候様申出候ニ付、其筋御吟味之上、御渡被成下候ハヽ、御手入之義無御座、当・明暮之間、いずれも成就為仕可申段申出候、尤去廿九日申上通、同村給人佐護四郎左衛門居宅一番御宿ニ被仰付候御事ニ御座候ハヽ、同人宅之儀は御宿ニ付、外廻り之取設共、悉皆自力を以取設、御用立て候事故、御宿弐軒下宿六間之諸品之義其筋ニおいて御吟味御手当被下方、被仰達被下度奉存候、就夫他郷ニ相勝レ、御入料相減し方競て相尽候様相見、御普請方引請候趣ニ申出、郷中一致仕候段、殊勝之義とも偏ニ奉役を初、役々応達方ニ出候義と評議仕候間、相当御称誉筋をも被仰出被下候ハヽ、他郷え之響ニも相成、猶又相励御為筋相尽可申義と奉存候、此段為可申上如斯御座候、以上

九月朔日　　御郡奉行所

杉村右馬助様

豊崎郷御巡検使御普請御加勢願、且御郡奉行所添書共ニ写し

大工・左官

口上覚

上使様御下向ニ付、旧例之通御宿被仰付奉畏候、就夫御普請方御見分之上御積相成、乍恐御時勢ニ依、御合力申上候様被仰達、奉承知候、内困之身分ニ御座候得共、御懇達之御旨奉恐感、御積帳之内、木材御入用之分、私ヨリ出精仕可申候、尤金物類・釘類、揉苅（すさ）等、上より御渡被仰付、大工・左官・手伝夫共ニ御借渡被成下候ハヽ、賃・飯米共ニ私ヨリ御合力可申上候間御序之刻、宜被仰上被下候様奉願候、以上

酉八月廿五日　　洲河次郎右衛門

武本與七郎殿

口上覚

上使様御巡検ニ付、先般御作事方ヨリ御本陣・御下宿共御入料御積帳之内、郷方家主々ヨリ御合力可申上と之御事奉畏、家主ニより御加勢并郷方ヨリ慶龍院御普請御用之内、五歩板之分御合力可申上段申上候処、他郷一同ニ難被為申上程之儀ニ付、又々御達ニ相成、恐怖至極ニ奉存候、就夫、当節郷役中評議仕、慶龍院・竺林院両寺御普請用板材木之分、全ク御強力申上度奉存候、尤御達之御旨ニは、御作事方積銀之内、郷方ヨリ何程御加勢可申上と之儀奉願候様被仰付候得共、近年不作打続、百姓共相苦罷有、其上上使様御巡検ニ付ては、多端之被召仕ニ御座候上、出銀等之儀尚又相苦罷有候、当節御宿之御普請用之板木ニ仕候時、代銀可被成下候御事

とは奉存候得共、百姓中手間を以御加勢申上候事故、同道理ニては御座候得共、何卒両寺御普請用板木ニて御受用被成下候ハヽ、難有仕合可奉存候、扨又近頃恐多奉願事ニ御座候得共、御本陣・御下宿御普請用御積書之内、椴板御入用ニて御割当御座候得共、自郷内椴木山取持仕候村方も多村無御座、船志・五根緒(尾)両村給人中知行所内ニは椴所持之人も御座候得共、御積書之通椴木板相納候時は、百姓中現銭を以相調相納可申事ニ押移、前行申上候通、多端之御召仕之中、出銀之儀相苦事故、格別之御入用御積之御事とは奉存候得共、右椴板之分松板ニ御仕替被仰付被成下候ハヽ、難有奉存、椴ニ引替候程之宜敷松為取出、相納可申候、右之趣御聞通被下、願之通被仰付被成下候ハヽ、重畳難有仕合可奉存候

右之趣御聞通被仰上被下候、何卒願之通被仰付被成下候様御執成之程、偏ニ奉頼候、以上

西八月廿七日　　豊崎郷下知役総代

畑嶋近左衛門

瀬崎六左衛門

武本与七郎殿

口上覚

上使様御下向ニ付、旧例之通御止宿村ニ被仰付、御本陣は素り御下宿六軒御借上ニ被仰付、御普請方御見分之上、御積立ニ相成、乍恐御時勢ニ依、御積銀之内、家主々より御加勢方奉願候

豊崎郷

豊村下知役

様と之被仰達奉畏候処、昨今不作打続、百姓共相苦罷有候内ニも、右御下宿家主之者共いつれも内困之者ニて、出銀方相苦申候付、御下宿之御普請御入用丈之板材木を以御加勢申上候様相諭申候処、自身取出御用立候事故、右丈にて御受用被仰付被成下候ハヽ、難有奉存候て、出精可仕段申出候候間、御聞通遂被仰上可被下候、且御本陣・両寺御入用手伝夫之者、是又村中より御合力可申上候間、右之赴御序之刻、宜被仰上被下候様奉願候、以上

西八月廿七日　　豊村下知役

洲河治郎右衛門

武本与七郎殿

豊崎郷豊村ニて上使御宿之儀、同村給人洲河治郎右衛門宅御借上ニ相成候付、御普請御入料積高之内、木材御入料之分自分より差出、金物類・釘類・揉苅（すさ）等之分は、上ヨリ御渡被成下、扨又大工・左官且手伝夫等御借渡被成下候ハヽ、賃銀・飯米共ニ御加勢可申上段、別紙を以申出、御自体柄厚勘弁仕候趣ニ相見、尤之心得方と評議仕候、右ニ申上候趣ニては、一簾（廉カ）之御加勢方ニ御座候得は、申出之次第御取用被下、心得方奇特之段は、御称誉をも被仰出被下度奉存候、尚御吟味之上、いつれ共御差図被仰出可被下候

一、同村竺林院・慶龍院此弐ヶ寺御宿ニ相成候ニ付、御普請御入料之内御加勢方之儀、郷中より板木を以差上度、其外下宿六軒之御入料之儀、是又右弐ヶ寺同様、板材木を以御加勢可申

郡奉行所

伊奈郷

上段、彼村下知役洲河治郎右衛門、且郷中総代下知役両人ヨリ別紙之通申出候付、書面三通差上之、掛御目申候、何れも御時体奉恐考、乍纔御加勢方之儀申出候は、偏ニ郷中一致仕候出精方ニ相見、奉役を初郷役人中厚評議仕候儀と奉存候間、可然御聞届ケ被成下御加勢之儀何れ共、御差図被仰出可被下候、夫ニ付申出之通、板木等を以御加勢被仰付候御儀ニ御座候ハヽ、彼村御宿之御普請積立之内ヨリ、右御加勢ニて取出候分之御作事方注文之内より相除ケ候様被仰達被下、尚其筋えも板木注文高相減候様被仰達可被下候、将又下知役中書面ニも申出居候通、彼村之儀は椴木至て数少ニ有之、平常之御用ニも不得相納郷方ニ御座候得は、椴木之代松板ニて品位相撰候て取出候様被仰付被下、尚又御手筋えも其段被仰達置被下候様奉希候、此段為可申上如斯御座候、以上

九月四日　　御郡奉行所

杉村右馬助様

御巡検使ニ付御普請御郡奉行所伺、伊奈郷・三根郷御加勢帳

一、本座板敷　惣体繕候事　足板五枚

一、次之間板敷　右同断　同四枚

一、右同所障子一枚　中ヵ仕替候事

一、三之間板敷　釘ニして繕候事

琴村給人

一、寄付障子弐枚　損し繕候事
一、右同断、絶付板敷繕候事　足板七枚
一、勝手水遣所　竹床九尺ニ五尺　新規張替候事
一、右同所水瓶縁回り　張替候事
一、勝手上り口　腰高れんし障子壱枚　新規出来巾三尺四寸
一、路地上り段　壱間板ニて壱枚出来候事
一、裏口障子壱枚　繕候事
一、納戸用在来古障子壱枚　繕相用候事
一、右同所敷板・板敷共ニ弐坪　新規張候事
〈頭注〉「此分改建相成り候付不用」
一、縁・庇・屋根折廻りニて七間　屋根垂木・木舞（こまい）仕替　枌葺替共ニ新規出来候事
一、本家屋根茅葺繕ニ不相成　新規葺替候事
一、濡縁打廻り七間之内弐間　下地より新規出来替　五間繕ニて相済　柱弐本取替候事
一、雨戸拾弐枚　いつれも繕候事
一、式台新規同様大繕取計候事
一、総体壁廻り繕候事　足し板参拾五枚
右は、琴村給人財部次郎家頃日御見分之節古宅御普請積り相成候付、右御積前之内、右之

琴村給人

表門

口々家主より夫々普請仕、御用立可申段御答申上置候と相聞、尤同人儀新宅改建仕、御用ニ相立候心得ニて、今程専ら木材取出方出精仕罷有、近々道具揃ニ至り候様子ニも相聞、尚又新宅建組ニ至り候上は、委細御届可申上候

一、琴村給人財部進住家之儀、一番様御本陣之御宿御借上ニ被仰付置、右ニ付御普請御見分積り帳御渡ニ相成、尚又当節御時体柄御達之御旨奉感服、此節御積前帳之御普請之分、自分ヨリ悉皆成就仕、御用立可申上段申出候

一、表門　新規出来
一、中門　右同断
一、次雪隠壱ヶ所　右同断
一、板材木　但御積前之分不残
一、椽竹　百拾弐本
一、大竹　拾弐本
一、杉丸太　弐拾八本
一、茅箒　三本
一、大杭　七本
一、手持子　拾壱
一、筵持子　一荷

給人財部

一、大長杭　　参拾弐本
一、石押枌　　拾六束
一、かづら　　四〆半
一、床左右塗壁　　三坪

右は、同村給人財部為之允住家、三番様御本陣御宿被仰付置、右ニ付御普請積帳前銀高之内ヨリ、右之口々御合力可申上段御請申上候

一、樫瀧村給人小宮傳住家、一番様御本陣御宿被仰付置候処、右同人儀、此節改建仕、全ク素建ニて、内作より悉皆成就仕御用立可申上段、先般御見分之刻御請申上置候、然所此節、上ヨリ御普請被成下候場所御積帳御渡ニ相成、御時体柄と申御物出不軽御場、殊更御達之御旨奉感服、右御積高之内、人夫ニて弐百人丈ケ被仰付被成下候ハ、、余は上ヨリ之御普請積前之分共、自分より悉皆成就仕御用立可申上段御請申候

瀬田村給人

一、瀬田村給人宮原佐馬允住家、二番様御本陣御宿被仰付置、右ニ付御普請積高之内より、折釘参本、大星釘参本、大折釘弐本、丸釩弐ツ、肘坪弐連、輪掛金弐連、銅小星釘参拾四本、塗壁三坪、右之分上ヨリ御手当被成下候ハ、、余は自分ヨリ悉皆成就仕、御用立可申上段、御請申上候

一、瀬田村給人宮原万之允住家、三番様御本陣御宿被仰付置候処、同人儀此節新改建仕、全ク素建ニて内作りヨリ悉皆成就仕御用立可申上段、先般御見分之刻御請申上置候、然所此節上

ヨリ御普請被成下候場所御積帳御渡ニ相成、御時体と申御物出不軽御場、殊更御達之御旨奉感服、右御積高之内人夫ニて弐百人丈ケ被仰付被成下候ハヽ、余は上ヨリ之御普請積前之分共ニ自分より悉皆成就仕、御用立可申上候段御請ケ申上候

右之通御宿々家主ヨリ申出候、以上

九月七日　　武田善左衛門

御郡奉行所

上使二番様

上使二番様　　白水孫兵衛

右は居宅御積入料、銀壱貫四百拾六匁八分参厘弐毛

内、半数銀御恵被成下、外ニ左官・麩細工御差下被成下候ハヽ、其余は自力を以て出精可仕段願出申候事

三番様

同三番様御宿　　安藤藤吉

右は居宅御入料、銀壱貫百四拾五匁五分四厘弐毛

内、銀参歩(分)壱、釘之分御恵ミ被成候ハヽ、其余は自力を以出精仕候段、願出申候事

後々申出、自郷御立山内ニ有之参尺五寸廻り杉木拾本、郷夫弐拾人被仰付候ハヽ、其余之入料は、自力を以悉皆御用立可申段申出候事

右御本陣之御宿は如斯

一番様

上使一番様　　妙泉寺

御普請御入料、銀七百六拾八匁九分三厘六毛、内屋根茅八拾貫目ニ釘、番手仕事之儀は、上ヨリ御恵被成下候ハ、、其余は組中ヨリ夫々取計可申上段願出申候事

同御下宿　　百姓　又六　住居

御見分之節、新規建御用立候様申上置候間、諸事自力を以造候御宿可申上段申出候事

同二番様御下宿　　百姓　吉五郎　住居

諸御普請所御積前木道具之儀は、手前ヨリ取出出精可仕候間、普請之儀ハ、上ヨリ御取計可被被成下段申出候事

同御下宿　　百姓　甚吉　住居

御見分之節申上置候通、本家根繕、庇葺替之儀は手前ヨリ出精可仕候付、御普請所之儀は上ヨリ夫々御取計可被被成下候段申出候事

同三番様　　百姓　福治　住居

御見分御積前之木道具之儀は、手前ヨリ取出、出精可仕候間、御普請之儀は上ヨリ御取計可被成下段申出候事

同御下宿　　百姓　千助　住居

右御見分御積前之木道具之儀は、手前ヨリ取出、出精可仕候間、所々御普請所之儀は上ヨリ夫々取計可被成下段申出候事

右御下宿々之分如斯

右之通ニ御座候、以上

八月十三日　　阿比留次郎兵衛

御郡奉行所

伊奈郷

佐賀村給人

円通寺

上使御上宿伊奈郷琴村・仁田、三根郷佐賀村、御宿々御普請御加勢方之儀は、別帳之通申出、何れも格別出精之段、宜御聞得可被成下候、右之通ニ候得は、御作事方積前も相減可申候間、猶其筋可然被仰達可被下候

一、伊奈郷多所御泊御下宿之儀は、最初見分積之通、被仰付可被下候

一、佐賀村給人安藤藤吉申出之趣、御便用筋と奉存候間、願之通尾立山之内より参尺五寸廻り折木拾本、郷夫弐拾人御渡被下度、伐木方も御座候間、尚又何れ共御速ニ御治定被仰出可被下候

一、同村壱番御本陣円通寺之儀は、上之御普請所ニて、御入料積り銀壱貫百八拾匁余と相成居、大分之御入目ニ相見申候、然処同村給人平田十平居宅御先例御宿ニ相成居申候処、当節殊外大破仕、此節普請入料積銀参貫七百匁余ニ相成候程之儀ニ候間、御宿配ニ相除有之候得共、十平御加勢出精仕、円通寺御普請被成候より、差当り御入目軽く相成候儀ニも候ハヽ、御便用と奉存候積前之内、如何程出精可仕哉、及諭達ニ見候様、奉役え達下置申候得共、手張り

候普請ニ付何と可申出歟、先々円通寺御普請被成候御手配ニ御覧被置被下度奉存候

右之趣為可申上、如斯御座候、以上

九月十一日　　御郡奉行所

杉村右馬助様

久田村

御巡検使久田村御滞船中、久田村御揚陸場御普請ニ付、御郡奉行所被申上之書面写し

御巡検使久田浦御滞船中御揚陸有之候節之為、彼村給人長杢之進居宅御借上、其外風呂場・小間物屋等ニて弐軒、都合三軒御借上ニ相成候間、其筋ヨリ之御普請積前を以、自力相届候丈御加勢申上方、相達申候処、右同人ヨリ紙末之通、御加勢申出候付、其御筋え被仰達被下度、尤右之外貧村之儀相届得不申段、彼之郷奉役より申出候間、可然様御聞届被下候様ニと奉存候、此段為可申上如斯御座候、以上

十一月十二日　　御郡奉行所

田嶋左近右衛門様

幾度八郎左衛門様

一、銀百匁　　但御入料銀之内、如斯

一、平瓦四拾参枚

一、丸同弐拾五枚

久田村
小間物屋

一、桟同参拾八枚　　但積前之分
一、巴同五枚
以上

御巡検使久田村御滞船中、御揚陸有之節之為、彼村給人長杢之進宅御借上、其外風呂場・小間物屋ニて弐軒御借上ケニ相成、頃日御役々立会見分相済居候処、杢之進ニは銀百匁、其外瓦入用之分積り前通御加勢可申上段、申出候儀と相見へ、御郡奉行所申出之書面被成御渡、披見仕候、類例も御座候得は、申出之通被仰付度奉存候、且又風呂屋壱軒、小間物屋壱軒之儀は何れも百姓屋之儀ニ付、御加勢難相届儀と相見、素り座廻り、建具、塗壁等損し繕、障子張替之儀は、上ヨリ御取計被下候儀ニ付、家内掃除、いろり上ハ塗り仕、屋鋪廻り見苦敷無之様、掃除仕、構垣等出来候儀は、他郷ニも宿立之主請持之儀、先格と相見申候得は、久田村ニも家内は素り屋鋪廻り掃除総て、勝手廻り見苦敷儀無之丈ケは相心得候様御達被下置度、其頃ニ至候ハ、、尚又不掃除之儀無之為下代等差越、掃除方差図為仕度奉存候、右之趣も御達被下置度奉存候、以上

酉拾弐月　　吉村儀右衛門
藤正左衛門

薬物

人参

〃御巡見使ニ付、郷夫数百人被召仕候付、御郡奉行所より申出ニヨリ、左之通薬物御渡し被置、
入用丈取遣候、残り上納被仰付候事

一、人参弐袋　　参分入ニして
一、清心丸六丸
一、万能膏六貝
一、百勝丸拾弐袋

御馬方

一、木綿小紋羽織九ツ　　内弐ツ　小頭
同六ツ　上使御引馬口付御厩組六人
同壱ツ　中馬宰領
一、紺単物参拾八　内弐拾壱　貸渡
一、脇差参拾八柄　内拾五柄
一、脚半四拾六　内弐拾参
一、青合羽拾弐　内拾壱
一、箱挑灯六張　内参張

赤合羽

菅笠

中馬六疋

一、荷桐油拾枚　内参ツ
一、赤合羽参拾四　内拾五
一、弐拾匁掛蝋燭拾弐丁
一、七嶋五枚
一、細引六筋
一、筵四枚
一、菅笠四拾六枚
右御馬方渡

御巡検使ニ付、御入用之中馬六疋御借上、馬主預且御買上之積共ニ紙末ニ書載、奉入御覧候、尤乍当時御買入之方御便利相見申候、此段如何可被仰付候哉奉伺之候、以上

四月十六日　御馬方

覚

一、九銭五百四拾匁
但し、中馬六疋御借入、壱日壱疋ニ付、九銭参匁宛、日数参拾日と積り
一、九銭四百八拾匁

但、中馬六疋田舎御付廻り、日数拾日と見、壱日壱疋前之人馬賃銭、九銭八匁ツヽニして

一、同、五拾匁

但、中馬六疋請負之者壱人、田舎御下り中被召仕候御先形と相見候ニ付、此者壱日壱人五匁宛ニして、日数拾日分

三口〆　壱貫七拾匁

一、荒麦壱石弐斗

一、粉糠壱石弐斗

但、中馬六疋田舎御下り中、壱日壱疋ニ付弐升宛ニして、拾日分

一、青草見計

但、上馬・中馬繫用

此参口、田舎御泊り之御場所へ御備へ被下置候事

外

一、中馬請負之者壱人、馬主六人、田舎御付廻中、飯米上ヨリ焚出被仰付

右之通、馬主預ケニして、御借上被成下候ハヽ、無御用欠様、浜馬方松兵衛御請持可申上段申出ル

一、九銭壱貫弐百匁

但、中馬六疋御買入代、壱疋ニ付九銭弐百匁宛ニして

一、同、百六拾弐匁

但、中馬六疋、壱日壱疋朝鮮俵参俵宛

桐藁飼ニして、壱俵ニ付九銭参分位と見て、壱日壱疋九銭九分ツヽ、参拾日分如此

一、同、五拾四匁

但、中馬六疋壱日壱疋ニ付、粉六百匁ツヽニして、代九銭参分と見て、日数参拾日分、

如此

三口〆　九銭壱貫四百六拾匁

内九百匁、中馬六疋御用済之上、馬主へ壱疋ニ付九銭百五拾匁ニして、御売戻シ被仰

付ニして如是

残て九銭五百拾六匁

外ニ

一、夫壱人　但、飼料之朝鮮俵切用

一、魚油二升弐合

一、夫六人　但、田舎御付廻り中馬六疋御付用之郷夫如是

此三口、御買入之上、御増渡被下候分如是

一、九銭壱貫七拾匁

御馬方

上・中馬

但、馬主預ニして、御借上之積り如是

一、同、五百拾六匁

但、御買入之上御立込之積ニして如是

右両段積合見候処、買入之分凡九銭五百五拾四匁御徳分ニ相見候、猶御賢慮次第御差図被仰付可被成下候、以上

此役所掛紙

御馬方より差上候書面被成御渡、披見仕候、御巡検使ニ付、中馬六疋御借入且御買上之積両段、如何可被仰付候哉之趣ニ相見申候、同所積ニて御買上ニ相成、御用済之上、御払ニ相成候方御便用之儀と相見申候間、申出之通、御馬方御任被成如何可有御座候哉、尤飼料之俵切夫之儀は、同所へ召仕候竈之者宛行ニして、中馬御買上ニ相成候日ヨリ増竈召抱候様被仰付度奉存候、尚何れ共御賢慮次第奉存候、以上

四月十八日　　御勘定奉行所

右之通御用意被仰付置候処、上・中馬共被差出候義御断ニ被及候段、迎として壱州へ被差超置候御用達ヨリ申来候付、御買入之中馬弐疋は御入用有之候付被残、跡は売ニ取計候様被仰渡置候処、御用済之上、右御残之弐疋も御売払ニ相成候事

馬医

〃馬医志田左右作儀、御牽馬且中馬田舎え被差下候付、御付廻り被仰付置候付、持下之薬種代銀四拾九匁八分御渡し被置候処、此節御牽馬中馬共不被差下候付、左右作儀不被差下候間、右銀願ニ依払切被仰付、調合之丸散は御馬方御備へ被置、病馬等之節相用候様被仰付、委細被仰出之、細ニ有之

（次号に続く）